

# 三重県ヤングケアラー調査報告書

令和8年3月

三重県



## 目次

### 第1章 ヤングケアラー調査事業について

1 目的	1
2 調査方法・内容	1

### 第2章 アンケート調査の結果

1 調査結果	2
(1) 回答者の世代	2
(2) 現在の職種	3
(3) 世話をしている家族の有無	4
(4) 世話を必要としている方	6
(5) 世話を必要としている方の状況	7
(6) 世話の内容	8
(7) 世話を誰と行っているか	9
(8) 平日の世話の時間	10
(9) 悩みや問題	11
(10) 悩みや問題をどこに相談したか	13
(11) 相談しなかった、またはできなかった理由	14
(12) 周囲に助けてほしいこと、必要としている支援	15
(13) 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口	17
(14) 相談しやすいと思う条件	23
(15) 「ヤングケアラー」の認知度	29
(16) 啓発活動として効果があると思われる取組	31
(17) ヤングケアラーに必要なと思う支援やサポート、要望など	34
2 令和4年度調査との比較	40
3 アンケート調査結果のまとめ・考察	47

### 第3章 市町ヒアリング調査の結果

1 調査結果の概要	66
2 市町ヒアリング調査結果のまとめ・考察	68

### 第4章 当事者ヒアリング調査の結果

1 調査結果の概要	70
(1) ヒアリング対象者の年代及びケアの対象者	70
(2) ケアの状況について	71
(3) ケアをすることに対する思い	71
(4) 体調面で気になること	72

(5) 生活への影響	72
(6) 悩みや困りごと	73
(7) 自分がヤングケアラーだと気付いたきっかけ	73
(8) 相談について（ケアしていた当時、誰かに相談した(ケアのことを話した)経験）	74
(9) 相談について（ケアしていた当時、誰かに相談した(ケアのことを話した)経験がある場合は、相談相手、その内容）	74
(10) 相談について（どういう人・方法（場所）が相談しやすいと感じるか）	74
(11) 相談について（どんなことを相談したい（話したい）か）	74
(12) あったらよいと感じる支援	75
(13) 支援を利用したきっかけ（つながったきっかけ）	75
(14) 利用した支援内容	76
(15) 他の人にしてもらって嬉しかったこと	76
(16) 支援を受けた後の変化について	76
(17) 支援をする人たちに知っておいてほしいこと	76
2 当事者ヒアリング調査結果のまとめ・考察	78

## 資料

1 WEB 調査項目・設問	80
2 市町ヒアリング調査票<ヤングケアラーに関わる支援状況について>	87
3 当事者ヒアリング項目	89

# 第1章 ヤングケアラー調査事業について

## 1 目的

令和6年6月に「子ども・若者育成支援推進法」が改正され、ヤングケアラーについて、国や地方公共団体等の関係機関が支援に努めるべき対象として、法律に明記されました。

ヤングケアラーの法制化により、県の役割として広域的な調査を実施し、把握した状況を踏まえ、地域におけるヤングケアラーの把握から支援につなぐ仕組みや、18歳以上の若者の相談に応じ、その状況やニーズ・課題の整理などを支援する体制の整備が求められています。

本調査事業では、ヤングケアラーの早期発見につながる事業や啓発方法等の把握、主に18歳以上のヤングケアラーを対象にした相談支援体制の構築に向けて、相談しやすい相談機関・窓口の条件など若者の意識や現状等について把握することを目的としました。

## 2 調査方法・内容

本調査事業においては、下記の3種類の調査を実施しました。

	調査手法	調査対象	調査内容等の概要 (方法・目的・内容・期間)
1	アンケート調査	高校生世代、 大学生世代、 社会人世代の 各世代500名、 合計1,500名 (県内在住の 15歳～30歳未満)	①方法：WEBを利用したアンケート調査 (ネットリサーチモニター) ②目的・内容：高校生世代等三世代のケアの状況 等について把握・整理する。 ・ヤングケアラーの状況把握(ケアの有無など) ・相談の有無、望ましい相談体制 など ③期間：令和7年9月2日～9月12日
2	市町 ヒアリング	県内29市町の ヤングケアラー 担当課	①方法：面談(訪問)によるヒアリング調査 ②目的・内容：市町の支援の取組状況等について 把握・整理する。 ・ヤングケアラーの把握状況 ・現在の支援の取組状況と今後必要と考える 支援内容 など ③期間：令和7年7月15日～10月3日
3	当事者 ヒアリング	ヤングケアラー、 元ヤングケアラー 7名 (三重県にゆかりの ある20代～50代)	①方法：面談によるヒアリング調査 ②目的・内容：アンケートではつかみ切れないヤ ングケアラー、元ヤングケアラーの思いや課題 などについて把握・整理する。 ・ケアの対象、内容 ・当事者が望む支援及び相談体制 など ③期間：令和7年8月10日～10月6日

## 第2章 アンケート調査の結果

### 報告書の見方

- ・「n」は、その設問におけるサンプルサイズ（有効回答数）を表している。
- ・各回答の比率を求めるときは、nを100%として算出している。少数第二位を四捨五入しているため、割合の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の質問は、サンプルサイズ（n）に占める各回答数の割合となっているため、各回答の割合の合計は通常100%を超える。

### 1 調査結果

#### (1) 【回答者の世代】

Q1. あなたの年齢を教えてください。(数字を入力)

「高校生世代」500件（33.3%）、「大学生世代」500件（33.3%）、「社会人世代」500件（33.3%）となっている。世代間比較をするため、各世代それぞれ500件になるように設定した。

図表1 世代

No.	カテゴリ	件数	割合
1	15歳以上18歳まで（高校生世代）	500件	33.3%
2	19歳以上22歳まで（大学生世代）	500件	33.3%
3	23歳以上29歳まで（社会人世代）	500件	33.3%
	n (% <sup>^</sup> -)	1,500件	100.0%

※2について、現在18歳で令和8年4月1日までに19歳になる方を含む。

3について、現在22歳で令和8年4月1日までに23歳になる方を含む。

## (2)【現在の職種】

Q2. あなたの現在の職種等について教えてください。(どれかひとつを選択)

ア 現在の職種は、「高校生」が449件(29.9%)で最も多く、次いで「正社員(常時雇用されている一般従業者)」が379件(25.3%)、「学生(大学・短大・専門学校などを含む)」が284件(18.9%)となっている。

「その他」の内容として、「専業主婦」「休職中」「就労継続支援B型事業所」「産休中」「団体職員」などとなっている。

イ 現在の職種を世代別で見ると、高校生世代は、「高校生」が449件(89.8%)で最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が33件(6.6%)、大学生世代は、「学生(大学・短大・専門学校などを含む)」が261件(52.2%)で最も多く、次いで「正社員(常時雇用されている一般従業者)」が121件(24.2%)、社会人世代は、「正社員(常時雇用されている一般従業者)」が258件(51.6%)で最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が88件(17.6%)となっている。

図表2 現在の職種(世代別)

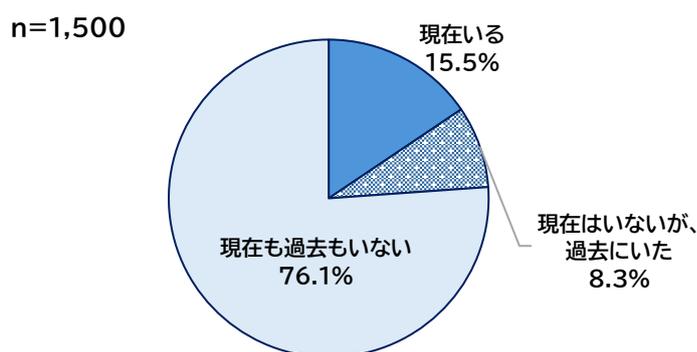
カテゴリ	全体(n=1,500)		高校生世代(n=500)		大学生世代(n=500)		社会人世代(n=500)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
高校生	449件	29.9%	449件	89.8%	0件	0.0%	0件	0.0%
学生(大学・短大・専門学校などを含む)	284件	18.9%	0件	0.0%	261件	52.2%	23件	4.6%
正社員(常時雇用されている一般従業者)	379件	25.3%	0件	0.0%	121件	24.2%	258件	51.6%
臨時雇用・パート・アルバイト	166件	11.1%	33件	6.6%	45件	9.0%	88件	17.6%
派遣社員	23件	1.5%	0件	0.0%	4件	0.8%	19件	3.8%
契約社員	23件	1.5%	0件	0.0%	8件	1.6%	15件	3.0%
会社経営者・役員	6件	0.4%	0件	0.0%	4件	0.8%	2件	0.4%
自営業者・自由業者・家族従業者	28件	1.9%	8件	1.6%	5件	1.0%	15件	3.0%
無職	128件	8.5%	7件	1.4%	47件	9.4%	74件	14.8%
その他	14件	0.9%	3件	0.6%	5件	1.0%	6件	1.2%
n(% <sup>^</sup> -s)	1500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%

### (3) 【世話をしている家族の有無】

Q3. 家族の中に、あなたが世話をしている人はいますか。(どれかひとつを選択) ※自分の子どもを育てている場合は含まないでください。

ア 世話をしている家族の有無は、「現在いる」が 233 件 (15.5%)、「現在はいないが、過去にいた」が 125 件 (8.3%)、「現在も過去もない」が 1,142 件 (76.1%) となっている。

図表3 世話をしている家族の有無



イ 世話をしている家族の有無を世代別でみると、高校生世代は「現在いる」が 82 件 (16.4%)、「現在はいないが、過去にいた」が 44 件 (8.8%)、大学生世代は「現在いる」が 95 件 (19.0%)、「現在はいないが、過去にいた」が 55 件 (11.0%)、社会人世代は「現在いる」が 56 件 (11.2%)、「現在はいないが、過去にいた」が 26 件 (5.2%) となっている。

図表4 世話をしている家族の有無 (世代別)

カテゴリ	全体(n=1,500)		高校生世代(n=500)		大学生世代(n=500)		社会人世代(n=500)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
現在いる	233件	15.5%	82件	16.4%	95件	19.0%	56件	11.2%
現在はいないが、過去にいた	125件	8.3%	44件	8.8%	55件	11.0%	26件	5.2%
現在も過去もない	1142件	76.1%	374件	74.8%	350件	70.0%	418件	83.6%
n(% <sup>^</sup> -)	1500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%

ウ 世話をしている家族がいる（いた）人に対して、

（ア）世話をしている家族がいる（いた）人の職種は、「高校生」が109人（30.4%）で最も多く、次いで「正社員（常時雇用されている一般従業者）」が102件（28.5%）となっている。

（イ）世話をしている家族がいる（いた）人の職種を世代別でみると、高校生世代は、「高校生」が109件（86.5%）で最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」11件（8.7%）、大学生世代は、「学生（大学・短大・専門学校などを含む）」が71件（47.3%）で最も多く、次いで「正社員（常時雇用されている一般従業者）」48件（32.0%）、社会人世代は、「正社員（常時雇用されている一般従業者）」が54件（65.9%）で最も多く、次いで「学生（大学・短大・専門学校などを含む）」、「臨時雇用・パート・アルバイト」が11件（13.4%）となっている。

図表5 世話をしている家族がいる（いた）人の職種（世代別）

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
高校生	109件	30.4%	109件	86.5%	0件	0.0%	0件	0.0%
学生(大学・短大・専門学校などを含む)	82件	22.9%	0件	0.0%	71件	47.3%	11件	13.4%
正社員(常時雇用されている一般従業者)	102件	28.5%	0件	0.0%	48件	32.0%	54件	65.9%
臨時雇用・パート・アルバイト	37件	10.3%	11件	8.7%	15件	10.0%	11件	13.4%
派遣社員	3件	0.8%	0件	0.0%	2件	1.3%	1件	1.2%
契約社員	2件	0.6%	0件	0.0%	0件	0.0%	2件	2.4%
会社経営者・役員	3件	0.8%	0件	0.0%	3件	2.0%	0件	0.0%
自営業者・自由業者・家族従業者	4件	1.1%	2件	1.6%	2件	1.3%	0件	0.0%
無職	12件	3.4%	2件	1.6%	7件	4.7%	3件	3.7%
その他	4件	1.1%	2件	1.6%	2件	1.3%	0件	0.0%
n(% <sup>^</sup> -s)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

参考) 図表6 世話をしている家族が現在も過去もない人の職種（世代別）

カテゴリ	全体(n=1142)		高校生世代(n=374)		大学生世代(n=350)		社会人世代(n=418)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
高校生	340件	29.8%	340件	90.9%	0件	0.0%	0件	0.0%
学生(大学・短大・専門学校などを含む)	202件	17.7%	0件	0.0%	190件	54.3%	12件	2.9%
正社員(常時雇用されている一般従業者)	277件	24.3%	0件	0.0%	73件	20.9%	204件	48.8%
臨時雇用・パート・アルバイト	129件	11.3%	22件	5.9%	30件	8.6%	77件	18.4%
派遣社員	20件	1.8%	0件	0.0%	2件	0.6%	18件	4.3%
契約社員	21件	1.8%	0件	0.0%	8件	2.3%	13件	3.1%
会社経営者・役員	3件	0.3%	0件	0.0%	1件	0.3%	2件	0.5%
自営業者・自由業者・家族従業者	24件	2.1%	6件	1.6%	3件	0.9%	15件	3.6%
無職	116件	10.2%	5件	1.3%	40件	11.4%	71件	17.0%
その他	10件	0.9%	1件	0.3%	3件	0.9%	6件	1.4%
n(% <sup>^</sup> -s)	1142件	100.0%	374件	100.0%	350件	100.0%	418件	100.0%

#### (4) 【世話を必要としている方】

Q4. Q3で「1現在いる」「2現在はいないが、過去にいた」と答えた方にお聞きします。世話の状況について教えてください。

※「現在はいないが、過去にいた」方は、当時世話をしていた人についてお答えください。

世話を必要としている方はどなたですか？

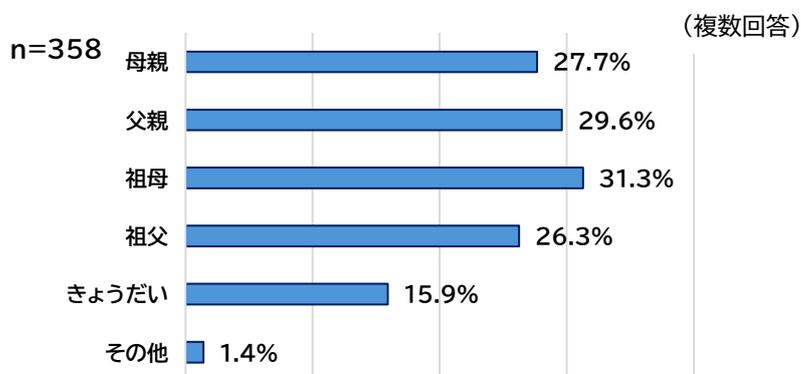
※複数の方がいる場合は、あてはまるもの全てお答えください。

※自分の子どもを育てている場合は含まないでください。

ア 世話を必要としている方は、「祖母」が112件(31.3%)で最も多く、次いで「父親」が106件(29.6%)、「母親」が99件(27.7%)となっている。

「その他」の内容として、「親戚」などとなっている。

図表7 世話を必要としている方



イ 世話を必要としている方を世代別でみると、高校生世代は、「祖母」が51件(40.5%)で最も多く、次いで「祖父」が41件(32.5%)、大学生世代は、「母親」が49件(32.7%)で最も多く、次いで「父親」が48件(32.0%)、社会人世代は、「母親」が30件(36.6%)で最も多く、「父親」が26件(31.7%)となっている。

図表8 世話を必要としている方(世代別)

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
母親	99件	27.7%	20件	15.9%	49件	32.7%	30件	36.6%
父親	106件	29.6%	32件	25.4%	48件	32.0%	26件	31.7%
祖母	112件	31.3%	51件	40.5%	36件	24.0%	25件	30.5%
祖父	94件	26.3%	41件	32.5%	34件	22.7%	19件	23.2%
きょうだい	57件	15.9%	18件	14.3%	32件	21.3%	7件	8.5%
その他	5件	1.4%	0件	0.0%	1件	0.7%	4件	4.9%
n(% <sup>パーセント</sup> )	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

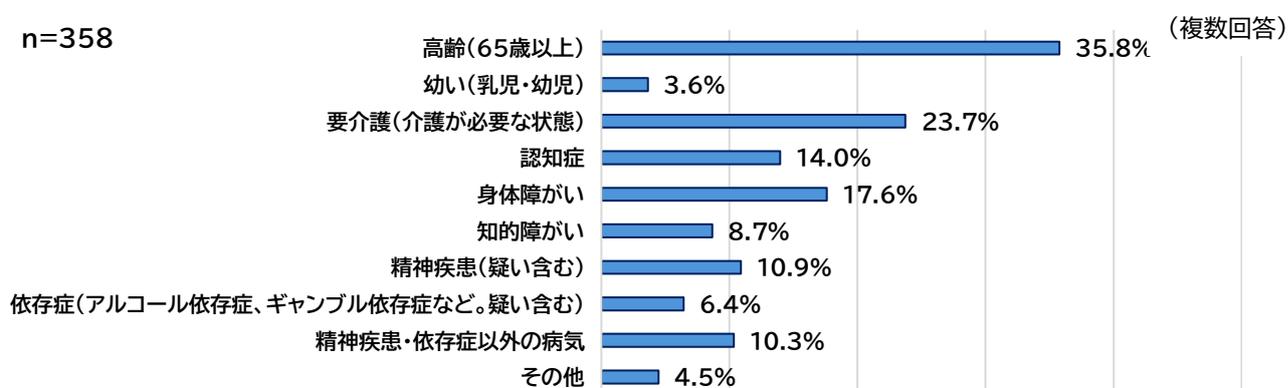
## (5) 【世話を必要としている方の状況】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q5. 世話を必要としている方の状況を教えてください。  
 ※複数の状況、複数の方がいる場合は、あてはまるもの全てお答えください。

ア 世話を必要としている方の状況は、「高齢(65歳以上)」が128件(35.8%)で最も多く、次いで「要介護(介護が必要な状態)」が85件(23.7%)、「身体障がい」が63件(17.6%)となっている。

「その他」の内容として、「小中学生」「パーキンソン病」「発達障害」「耳が不自由」「日本語がわからない人」「母の仕事が忙しいから」「言いたくない」などとなっている。

図表9 世話を必要としている方の状況



イ 世話を必要としている方の状況を世代別にみると、高校生世代は、「高齢(65歳以上)」が39件(31.0%)で最も多く、次いで「要介護(介護が必要な状態)」、「身体障がい」が30件(23.8%)、大学生世代は、「高齢(65歳以上)」が56件(37.3%)で最も多く、次いで「要介護(介護が必要な状態)」が33件(22.0%)、社会人世代は、「高齢(65歳以上)」が33件(40.2%)で最も多く、次いで「要介護(介護が必要な状態)」が22件(26.8%)となっている。

図表10 世話を必要としている方の状況(世代別)

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
高齢(65歳以上)	128件	35.8%	39件	31.0%	56件	37.3%	33件	40.2%
若い(乳児・幼児)	13件	3.6%	4件	3.2%	4件	2.7%	5件	6.1%
要介護(介護が必要な状態)	85件	23.7%	30件	23.8%	33件	22.0%	22件	26.8%
認知症	50件	14.0%	15件	11.9%	21件	14.0%	14件	17.1%
身体障がい	63件	17.6%	30件	23.8%	24件	16.0%	9件	11.0%
知的障がい	31件	8.7%	14件	11.1%	11件	7.3%	6件	7.3%
精神疾患(疑い含む)	39件	10.9%	11件	8.7%	20件	13.3%	8件	9.8%
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など。疑い含む)	23件	6.4%	7件	5.6%	10件	6.7%	6件	7.3%
精神疾患・依存症以外の病気	37件	10.3%	11件	8.7%	22件	14.7%	4件	4.9%
その他	16件	4.5%	6件	4.8%	5件	3.3%	5件	6.1%
n(% <sup>^</sup> -s)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

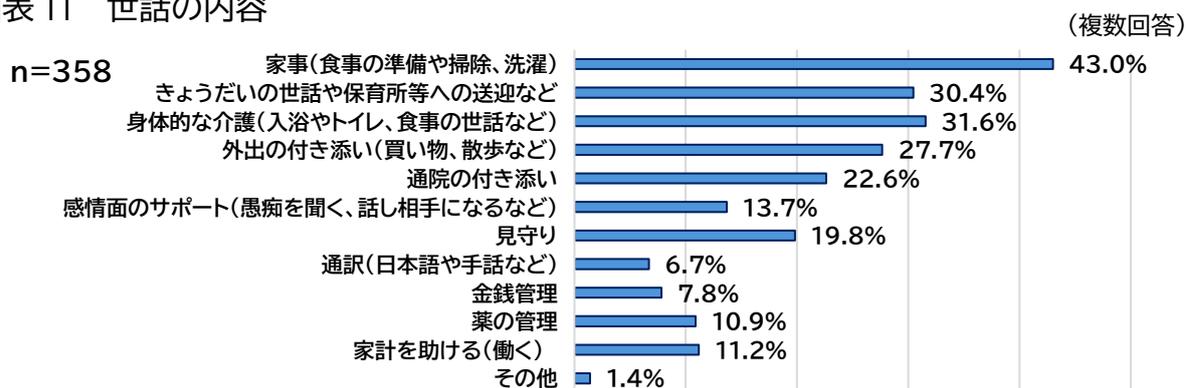
## (6) 【世話の内容】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)

Q6. あなたが行っている世話の内容を教えてください。(あてはまるもの全て選択) ※以下は世話をしている方が複数いる場合でも、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

ア 世話の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が154件(43.0%)で最も多く、次いで「身体的な介護(入浴やトイレ、食事の世話など)」が113件(31.6%)、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が109件(30.4%)となっている。「その他」の内容として、「車椅子を押す」などとなっている。

図表11 世話の内容



イ 世話の内容を世代別で見ると、高校生世代は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が49件(38.9%)で最も多く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が43件(34.1%)、大学生世代は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が71件(47.3%)で最も多く、次いで「身体的な介護(入浴やトイレ、食事の世話など)」が48件(32.0%)、社会人世代は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が34件(41.5%)で最も多く、次いで「身体的な介護(入浴やトイレ、食事の世話など)」が30件(36.6%)となっている。

図表12 世話の内容(世代別)

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	154件	43.0%	49件	38.9%	71件	47.3%	34件	41.5%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	109件	30.4%	43件	34.1%	43件	28.7%	23件	28.0%
身体的な介護(入浴やトイレ、食事の世話など)	113件	31.6%	35件	27.8%	48件	32.0%	30件	36.6%
外出の付き添い(買い物、散歩など)	99件	27.7%	38件	30.2%	42件	28.0%	19件	23.2%
通院の付き添い	81件	22.6%	25件	19.8%	34件	22.7%	22件	26.8%
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	49件	13.7%	18件	14.3%	21件	14.0%	10件	12.2%
見守り	71件	19.8%	25件	19.8%	33件	22.0%	13件	15.9%
通訳(日本語や手話など)	24件	6.7%	7件	5.6%	11件	7.3%	6件	7.3%
金銭管理	28件	7.8%	9件	7.1%	12件	8.0%	7件	8.5%
薬の管理	39件	10.9%	14件	11.1%	15件	10.0%	10件	12.2%
家計を助ける(働く)	40件	11.2%	12件	9.5%	19件	12.7%	9件	11.0%
その他	5件	1.4%	2件	1.6%	2件	1.3%	1件	1.2%
n(%) <sup>※</sup>	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

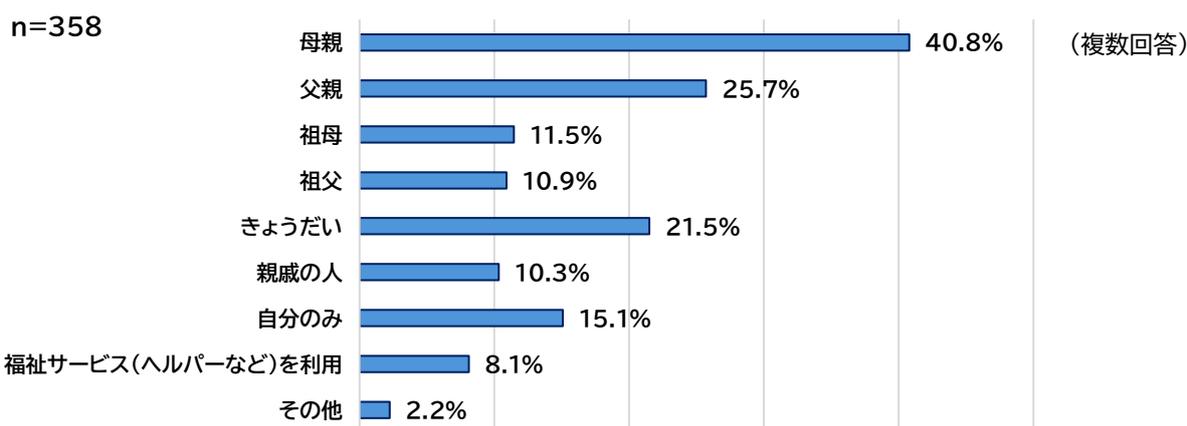
(7) 【世話を誰と行っているか】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q7. 世話は誰と行っていますか。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話を誰と行っているかは、「母親」が146件(40.8%)で最も多く、次いで「父親」が92件(25.7%)、「きょうだい」が77件(21.5%)、「自分のみ」が54件(15.1%)となっている。

「その他」の内容として、「パートナー」「言いたくない」などとなっている。

図表13 世話を誰と行っているか



イ 世話を誰と行っているかを世代別でみると、高校生世代は、「母親」が45件(35.7%)で最も多く、次いで「きょうだい」が33件(26.2%)、大学生世代は、「母親」が67件(44.7%)で最も多く、次いで「父親」が43件(28.7%)、社会人世代は、「母親」が34件(41.5%)で最も多く、次いで「父親」が21件(25.6%)となっている。

「自分のみ」で行っているのは、高校生世代では19件(15.1%)、大学生世代では20件(13.3%)、社会人世代では15件(18.3%)となっている。

図表14 世話を誰と行っているか(世代別)

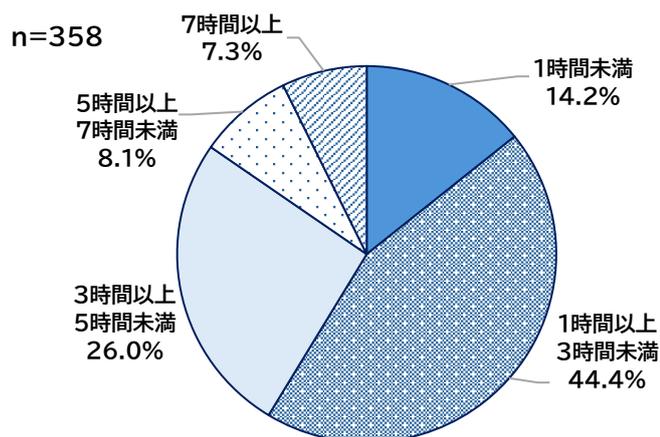
カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
母親	146件	40.8%	45件	35.7%	67件	44.7%	34件	41.5%
父親	92件	25.7%	28件	22.2%	43件	28.7%	21件	25.6%
祖母	41件	11.5%	19件	15.1%	14件	9.3%	8件	9.8%
祖父	39件	10.9%	14件	11.1%	16件	10.7%	9件	11.0%
きょうだい	77件	21.5%	33件	26.2%	27件	18.0%	17件	20.7%
親戚の人	37件	10.3%	18件	14.3%	11件	7.3%	8件	9.8%
自分のみ	54件	15.1%	19件	15.1%	20件	13.3%	15件	18.3%
福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	29件	8.1%	7件	5.6%	16件	10.7%	6件	7.3%
その他	8件	2.2%	2件	1.6%	4件	2.7%	2件	2.4%
n(% <sup>^</sup> -)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

(8) 【平日の世話の時間】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q8. 平日に世話は何時間程度行っていますか。(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください)(どれかひとつを選択)

ア 平日の世話の時間数は、「1時間以上3時間未満」が159件(44.4%)で最も多く、次いで「3時間以上5時間未満」が93件(26.0%)となっている。

図表15 平日の世話の時間



イ 平日の世話の時間を世代別で見ると、高校生世代は、「1時間以上3時間未満」が54件(42.9%)で最も多く、次いで「3時間以上5時間未満」が33件(26.2%)、大学生世代は、「1時間以上3時間未満」が75件(50.0%)で最も多く、次いで「3時間以上5時間未満」が36件(24.0%)、社会人世代は、「1時間以上3時間未満」が30件(36.6%)で最も多く、次いで「3時間以上5時間未満」が24件(29.3%)となっている。

3時間以上世話をしているのは、高校生世代では54件(42.9%)、大学生世代では58件(38.7%)、社会人世代で36件(43.9%)となっている。

図表16 平日の世話の時間(世代別)

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1時間未満	51件	14.2%	18件	14.3%	17件	11.3%	16件	19.5%
1時間以上3時間未満	159件	44.4%	54件	42.9%	75件	50.0%	30件	36.6%
3時間以上5時間未満	93件	26.0%	33件	26.2%	36件	24.0%	24件	29.3%
5時間以上7時間未満	29件	8.1%	14件	11.1%	8件	5.3%	7件	8.5%
7時間以上	26件	7.3%	7件	5.6%	14件	9.3%	5件	6.1%
n(% <sup>^</sup> -)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

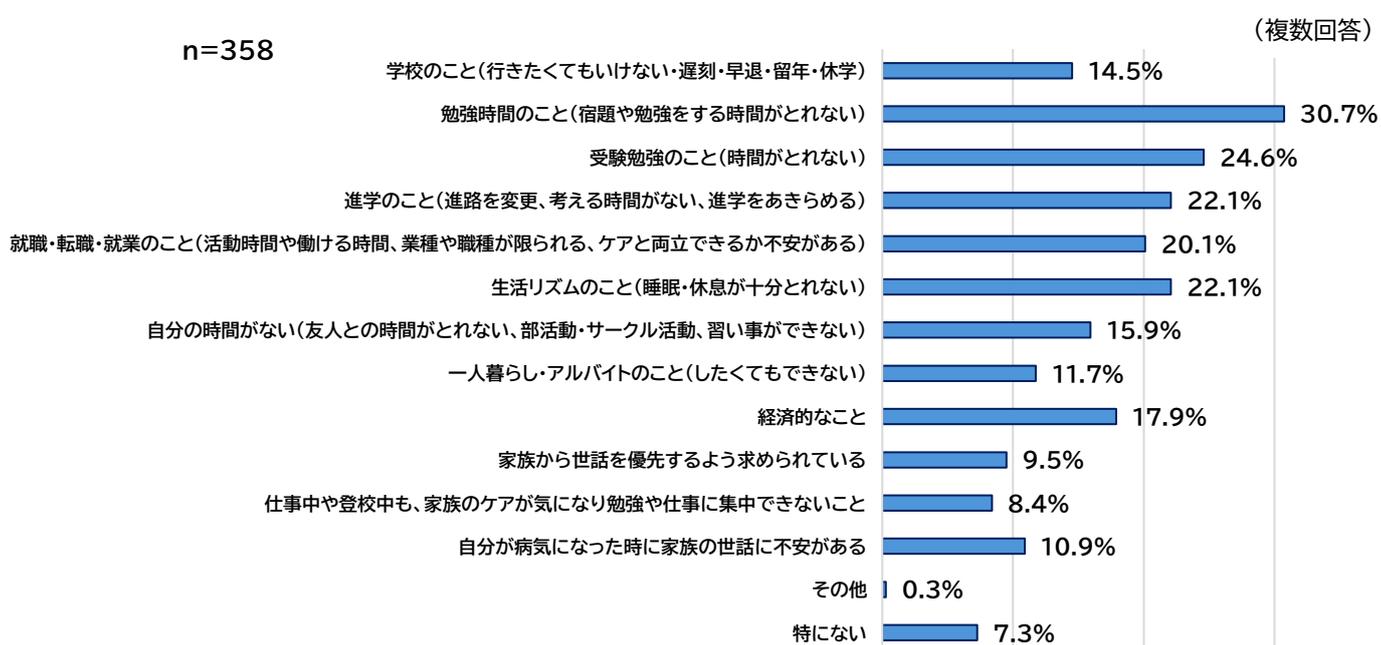
## (9)【悩みや問題】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q9. あなたが現在抱えている悩みや問題、または以前抱えていた悩みや問題について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族がいる(いた)人の悩みや問題は、「勉強時間のこと(宿題や勉強をする時間がとれない)」が110件(30.7%)で最も多く、次いで「受験勉強のこと(時間がとれない)」が88件(24.6%)、「進学のこと(進路を変更、考える時間がない、進学をあきらめる)」、「生活リズムのこと(睡眠・休息が十分とれない)」が79件(22.1%)となっている。

「その他」の内容として、「精神的にキツかった」などとなっている。

図表 17 悩みや問題



イ 世話をしている家族がいる（いた）人の悩みや問題を世代別で見ると、高校生世代は、「勉強時間のこと（宿題や勉強をする時間がとれない）」が 37 件（29.4%）で最も多く、次いで「受験勉強のこと（時間がとれない）」が 33 件（26.2%）、大学生世代は、「勉強時間のこと（宿題や勉強をする時間がとれない）」が 52 件（34.7%）で最も多く、次いで「生活リズムのこと（睡眠・休息が十分とれない）」が 38 件（25.3%）、社会人世代は、「勉強時間のこと（宿題や勉強をする時間がとれない）」が 21 件（25.6%）で最も多く、次いで「受験勉強のこと（時間がとれない）」が 20 件（24.4%）となっている。

図表 18 世話をしている家族がいる（いた）人の悩みや問題（世代別）

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
学校のこと(行きたくてもいけない・遅刻・早退・留年・休学)	52件	14.5%	11件	8.7%	33件	22.0%	8件	9.8%
勉強時間のこと(宿題や勉強をする時間がとれない)	110件	30.7%	37件	29.4%	52件	34.7%	21件	25.6%
受験勉強のこと(時間がとれない)	88件	24.6%	33件	26.2%	35件	23.3%	20件	24.4%
進学のこと(進路を変更、考える時間がない、進学をあきらめる)	79件	22.1%	26件	20.6%	34件	22.7%	19件	23.2%
就職・転職・就業のこと(活動時間や働ける時間、業種や職種が限られる、ケアと両立できるか不安がある)	72件	20.1%	23件	18.3%	35件	23.3%	14件	17.1%
生活リズムのこと(睡眠・休息が十分とれない)	79件	22.1%	26件	20.6%	38件	25.3%	15件	18.3%
自分の時間がない(友人との時間がとれない、部活動・サークル活動、習い事ができない)	57件	15.9%	15件	11.9%	30件	20.0%	12件	14.6%
一人暮らし・アルバイトのこと(したくてもできない)	42件	11.7%	12件	9.5%	18件	12.0%	12件	14.6%
経済的なこと	64件	17.9%	21件	16.7%	31件	20.7%	12件	14.6%
家族から世話を優先するよう求められている	34件	9.5%	7件	5.6%	21件	14.0%	6件	7.3%
仕事や登校中も、家族のケアが気になり勉強や仕事に集中できないこと	30件	8.4%	10件	7.9%	15件	10.0%	5件	6.1%
自分が病気になった時に家族の世話に不安がある	39件	10.9%	18件	14.3%	14件	9.3%	7件	8.5%
その他	1件	0.3%	0件	0.0%	1件	0.7%	0件	0.0%
特になし	26件	7.3%	8件	6.3%	10件	6.7%	8件	9.8%
n(% <sup>^</sup> -)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

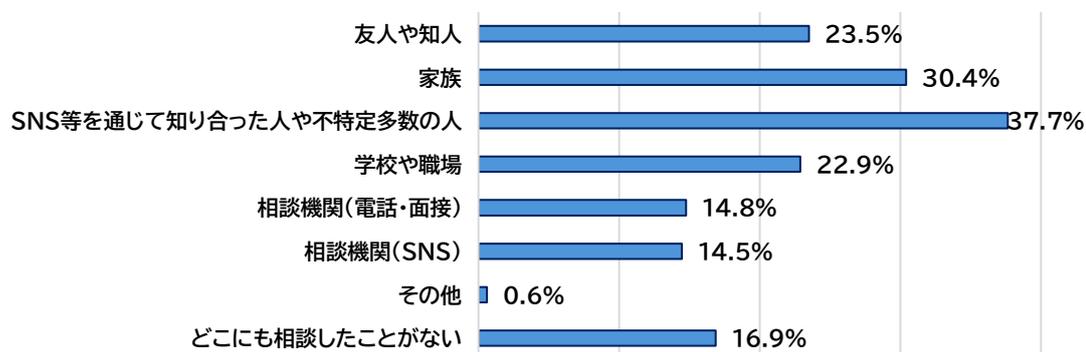
(10) 【悩みや問題をどこに相談したか】

Q10. Q9で「特にない」と回答した方以外の方にお聞きします。  
 あなたが悩みや問題を誰に（どこに）相談したか教えてください。（あてはまるもの全て選択）

ア 悩みや問題をどこに相談したかは、「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が125件（37.7%）で最も多く、次いで「家族」が101件（30.4%）、「友人や知人」が78件（23.5%）となっている。  
 「どこにも相談したことがない」は56件（16.9%）となっている。

図表 19 悩みや問題をどこに相談したか

n=332



イ 悩みや問題をどこに相談したかを世代別で見ると、高校生世代は、「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が42件（35.6%）で最も多く、次いで「家族」が31件（26.3%）、大学生世代は、「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が55件（39.3%）で最も多く、次いで「家族」が48件（34.3%）、社会人世代は、「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が28件（37.8%）で最も多く、次いで「家族」が22件（29.7%）となっている。  
 「どこにも相談したことがない」は、高校生世代で13件（11.0%）、大学生世代24件（17.1%）、社会人世代19件（25.7%）となっている。

図表 20 悩みや問題をどこに相談したか（世代別）

カテゴリ	全体(n=332)		高校生世代(n=118)		大学生世代(n=140)		社会人世代(n=74)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
友人や知人	78件	23.5%	24件	20.3%	39件	27.9%	15件	20.3%
家族	101件	30.4%	31件	26.3%	48件	34.3%	22件	29.7%
SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人	125件	37.7%	42件	35.6%	55件	39.3%	28件	37.8%
学校や職場	76件	22.9%	28件	23.7%	32件	22.9%	16件	21.6%
相談機関(電話・面接)	49件	14.8%	16件	13.6%	21件	15.0%	12件	16.2%
相談機関(SNS)	48件	14.5%	15件	12.7%	24件	17.1%	9件	12.2%
その他	2件	0.6%	1件	0.8%	0件	0.0%	1件	1.4%
どこにも相談したことがない	56件	16.9%	13件	11.0%	24件	17.1%	19件	25.7%
n(%^ -ス)	332件	100.0%	118件	100.0%	140件	100.0%	74件	100.0%

(11)【相談しなかった、またはできなかった理由】

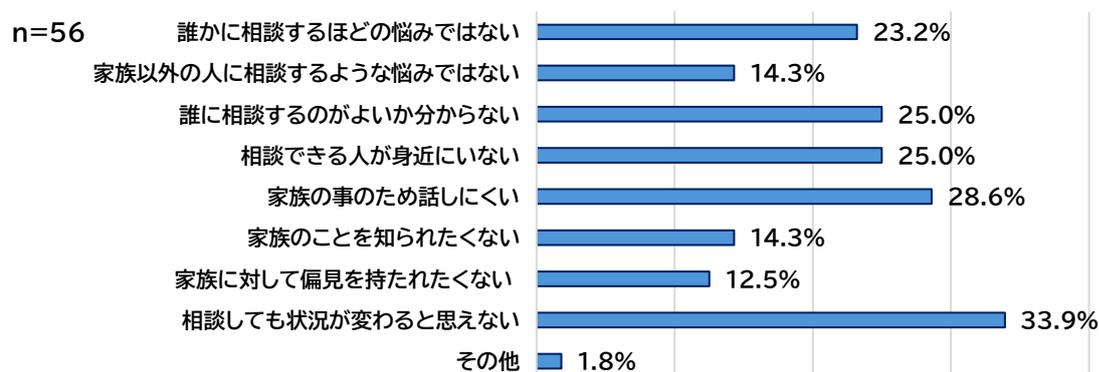
Q11. Q10で、「どこにも相談したことがない」と回答した方にお聞きします。あなたが相談しなかった、またはできなかった理由について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 相談しなかった、またはできなかった理由は、「相談しても状況が変わると思えない」が19件(33.9%)で最も多く、次いで「家族の事のため話しにくい」が16件(28.6%)、「誰に相談するのがよいか分からない」、「相談できる人が身近にいない」が14件(25.0%)となっている。

「その他」の内容として、「人に介入して欲しくない」となっている。

図表 21 相談しなかった、またはできなかった理由

(複数回答)



イ 相談しなかった、またはできなかった理由を世代別で見ると、高校生世代は、「相談しても状況が変わると思えない」が6件(46.2%)で最も多く、次いで「家族の事のため話しにくい」が4件(30.8%)、大学生世代は、「誰に相談するのがよいか分からない」が9件(37.5%)で最も多く、次いで「家族の事のため話しにくい」、「相談しても状況が変わると思えない」が8件(33.3%)、社会人世代は、「誰かに相談するほどの悩みではない」が7件(36.8%)で最も多く、次いで「誰に相談するのがよいか分からない」、「相談できる人が身近にいない」、「相談しても状況が変わると思えない」が5件(26.3%)となっている。

図表 22 相談しなかった、またはできなかった理由(世代別)

カテゴリ	全体(n=56)		高校生世代(n=13)		大学生世代(n=24)		社会人世代(n=19)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
誰かに相談するほどの悩みではない	13件	23.2%	3件	23.1%	3件	12.5%	7件	36.8%
家族以外の人に相談するような悩みではない	8件	14.3%	2件	15.4%	4件	16.7%	2件	10.5%
誰に相談するのがよいか分からない	14件	25.0%	0件	0.0%	9件	37.5%	5件	26.3%
相談できる人が身近にいない	14件	25.0%	2件	15.4%	7件	29.2%	5件	26.3%
家族の事のため話しにくい	16件	28.6%	4件	30.8%	8件	33.3%	4件	21.1%
家族のことを知られたくない	8件	14.3%	1件	7.7%	5件	20.8%	2件	10.5%
家族に対して偏見を持たれたくない	7件	12.5%	3件	23.1%	3件	12.5%	1件	5.3%
相談しても状況が変わると思えない	19件	33.9%	6件	46.2%	8件	33.3%	5件	26.3%
その他	1件	1.8%	0件	0.0%	0件	0.0%	1件	5.3%
n(%)*-s)	56件	100.0%	13件	100.0%	24件	100.0%	19件	100.0%

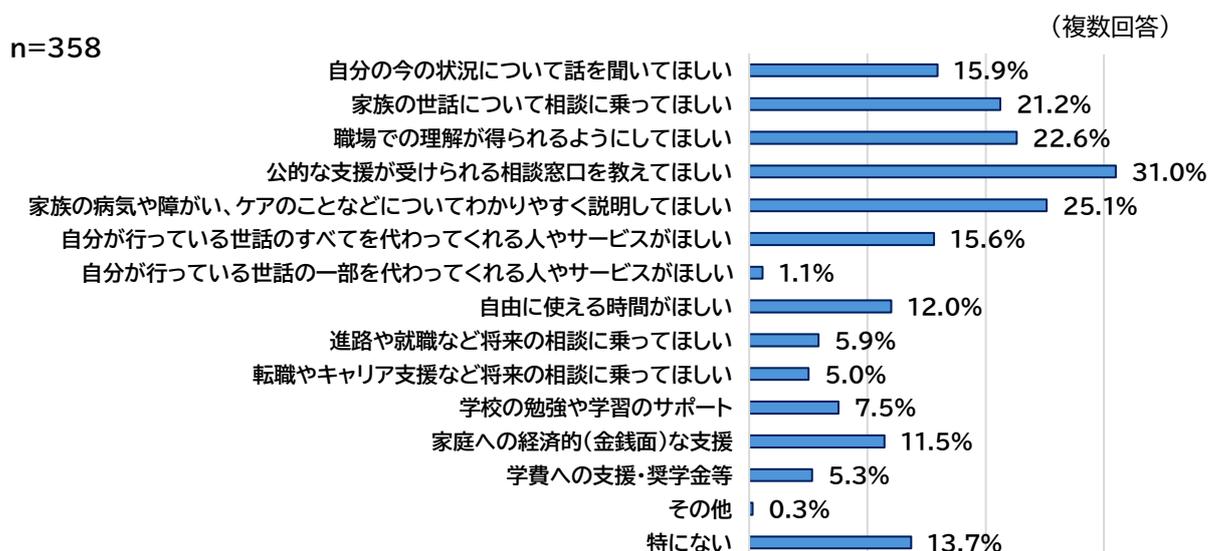
(12)【周囲に助けてほしいこと、必要としている支援】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
Q12. 周囲に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族がいる(いた)人が、周囲に助けてほしいことや、必要としている支援は、「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください」が111件(31.0%)で最も多く、次いで「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」が90件(25.1%)、「職場での理解が得られるようにしてほしい」が81件(22.6%)となっている。

「その他」の内容として、「(見え見えのサービスだと本人も使いたがらないので工夫してみんなが使いやすいようにしてほしい)」などとなっている。

図表 23 世話をしている家族がいる(いた)人が、周囲に助けてほしいこと、必要としている支援



イ 世話をしている家族がいる（いた）人の、周囲に助けてほしいこと必要としている支援を世代別でみると、高校生世代は、「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください」が 38 件（30.2%）で最も多く、次いで「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」が 29 件（23.0%）、大学生世代は、「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください」が 46 件（30.7%）で最も多く、次いで「職場での理解が得られるようにしてほしい」が 44 件（29.3%）、社会人世代は、「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください」が 27 件（32.9%）で最も多く、次いで「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」が 22 件（26.8%）となっている。

図表 24 世話をしている家族がいる（いた）人が、周囲に助けてほしいこと、必要としている支援（世代別）

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
自分の今の状況について話を聞いてほしい	57件	15.9%	19件	15.1%	27件	18.0%	11件	13.4%
家族の世話について相談に乗ってほしい	76件	21.2%	24件	19.0%	35件	23.3%	17件	20.7%
職場での理解が得られるようにしてほしい	81件	22.6%	23件	18.3%	44件	29.3%	14件	17.1%
公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください	111件	31.0%	38件	30.2%	46件	30.7%	27件	32.9%
家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	90件	25.1%	29件	23.0%	39件	26.0%	22件	26.8%
自分が行っている世話のすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい	56件	15.6%	22件	17.5%	23件	15.3%	11件	13.4%
自分が行っている世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい	4件	1.1%	2件	1.6%	2件	1.3%	0件	0.0%
自由に使える時間がほしい	43件	12.0%	14件	11.1%	16件	10.7%	13件	15.9%
進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	21件	5.9%	8件	6.3%	10件	6.7%	3件	3.7%
転職やキャリア支援など将来の相談に乗ってほしい	18件	5.0%	9件	7.1%	6件	4.0%	3件	3.7%
学校の勉強や学習のサポート	27件	7.5%	10件	7.9%	12件	8.0%	5件	6.1%
家庭への経済的(金銭面)な支援	41件	11.5%	12件	9.5%	21件	14.0%	8件	9.8%
学費への支援・奨学金等	19件	5.3%	6件	4.8%	9件	6.0%	4件	4.9%
その他	1件	0.3%	1件	0.8%	0件	0.0%	0件	0.0%
特になし	49件	13.7%	11件	8.7%	23件	15.3%	15件	18.3%
n(% <sup>^</sup> -s)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

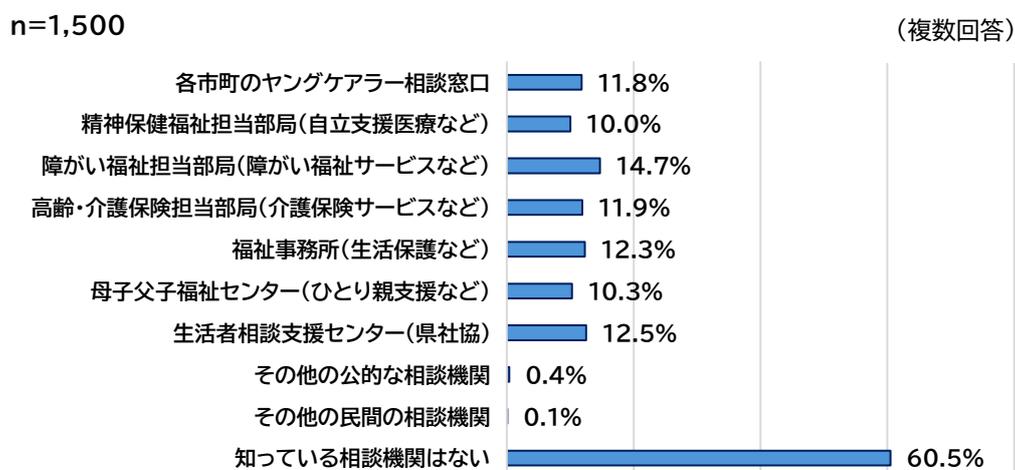
(13) 【知っている又は利用したことがある相談機関・窓口】

Q13-1. あなたが知っている、または利用したことがある相談機関・窓口について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口は、「知っている相談機関はない」が907件(60.5%)で最も多く、次いで「障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)」が220件(14.7%)、「生活者相談支援センター(県社協)」が187件(12.5%)となっている。

「その他」の内容として、「その他の公的な相談機関」で「子ども家庭センター」、「その他の民間の相談機関」で「消費者センター」などとなっている。

図表 25 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口



イ 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口を世代別で見ると、高校生世代は、「知っている相談機関はない」が268件(53.6%)で最も多く、次いで「障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)」が73件(14.6%)、大学生世代は、「知っている相談機関はない」が294件(58.8%)で最も多く、次いで「障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)」が91件(18.2%)、社会人世代は、「知っている相談機関はない」が345件(69.0%)で最も多く、次いで「福祉事務所(生活保護など)」が60件(12.0%)となっている。

図表 26 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口(世代別)

カテゴリ	全体(n=1,500)		高校生世代(n=500)		大学生世代(n=500)		社会人世代(n=500)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
各市町のヤングケアラー相談窓口	177件	11.8%	66件	13.2%	58件	11.6%	53件	10.6%
精神保健福祉担当部局(自立支援医療など)	150件	10.0%	50件	10.0%	66件	13.2%	34件	6.8%
障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)	220件	14.7%	73件	14.6%	91件	18.2%	56件	11.2%
高齢・介護保険担当部局(介護保険サービスなど)	179件	11.9%	61件	12.2%	63件	12.6%	55件	11.0%
福祉事務所(生活保護など)	185件	12.3%	59件	11.8%	66件	13.2%	60件	12.0%
母子父子福祉センター(ひとり親支援など)	155件	10.3%	62件	12.4%	54件	10.8%	39件	7.8%
生活者相談支援センター(県社協)	187件	12.5%	70件	14.0%	64件	12.8%	53件	10.6%
その他の公的な相談機関	6件	0.4%	2件	0.4%	4件	0.8%	0件	0.0%
その他の民間の相談機関	1件	0.1%	0件	0.0%	1件	0.2%	0件	0.0%
知っている相談機関はない	907件	60.5%	268件	53.6%	294件	58.8%	345件	69.0%
n(% <sup>^</sup> -s)	1500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%

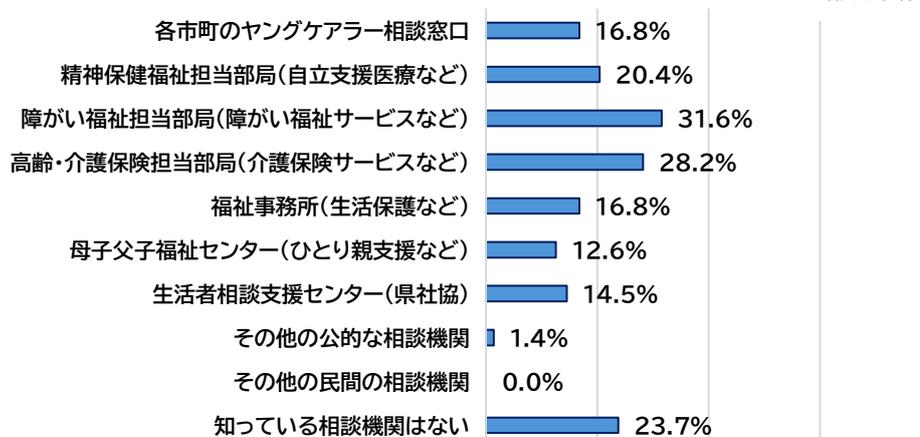
(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q13-2. あなたが知っている、または利用したことがある相談機関・窓口について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族がいる(いた)人が知っている又は利用したことがある相談機関・窓口は、「障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)」が113件(31.6%)で最も多く、次いで「高齢・介護保険担当部局(介護保険サービスなど)」101件(28.2%)となっている。「その他」の内容として、「その他の公的な相談機関」で「子ども家庭センター」などとなっている。

図表 27 世話を必要とする家族がいる(いた)人が、知っている又は利用したことがある相談機関・窓口

n=358

(複数回答)



イ 世話をしている家族がいる（いた）人が知っている又は利用したことがある相談機関・窓口を世代別で見ると、高校生世代は、「障がい福祉担当部局（障がい福祉サービスなど）」が 37 件（29.4%）、で最も多く、次いで「高齢・介護保険担当部局（介護保険サービスなど）」36 件（28.6%）、大学生世代は、「障がい福祉担当部局（障がい福祉サービスなど）」が 53 件（35.3%）で最も多く、次いで「知っている相談機関はない」41 件（27.3%）、社会人世代は、「高齢・介護保険担当部局（介護保険サービスなど）」が 31 件（37.8%）で最も多く、次いで「知っている相談機関はない」24 件（29.3%）となっている。

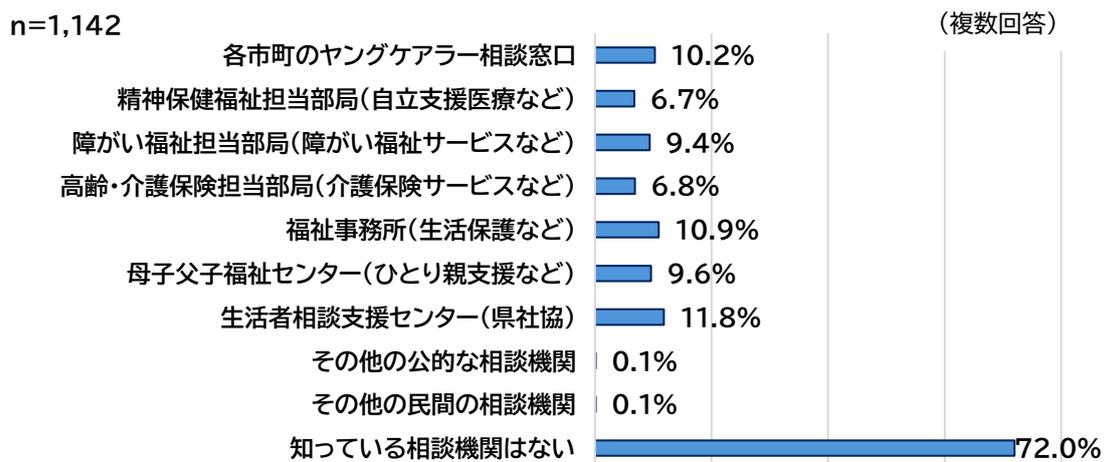
図表 28 世話をしている家族がいる（いた）人が、知っている又は利用したことがある相談機関・窓口（世代別）

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
各市町のヤングケアラー相談窓口	60件	16.8%	21件	16.7%	25件	16.7%	14件	17.1%
精神保健福祉担当部局(自立支援医療など)	73件	20.4%	26件	20.6%	37件	24.7%	10件	12.2%
障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)	113件	31.6%	37件	29.4%	53件	35.3%	23件	28.0%
高齢・介護保険担当部局(介護保険サービスなど)	101件	28.2%	36件	28.6%	34件	22.7%	31件	37.8%
福祉事務所(生活保護など)	60件	16.8%	21件	16.7%	27件	18.0%	12件	14.6%
母子父子福祉センター(ひとり親支援など)	45件	12.6%	16件	12.7%	18件	12.0%	11件	13.4%
生活者相談支援センター(県社協)	52件	14.5%	16件	12.7%	24件	16.0%	12件	14.6%
その他の公的な相談機関	5件	1.4%	2件	1.6%	3件	2.0%	0件	0.0%
その他の民間の相談機関	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
知っている相談機関はない	85件	23.7%	20件	15.9%	41件	27.3%	24件	29.3%
n(% <sup>^</sup> -s)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

(世話をしている家族が現在も過去もない人に対して)  
 Q13-3. あなたが知っている、または利用したことがある相談機関・窓口について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族が現在も過去もない人が知っている又は利用したことがある相談機関・窓口は、「知っている相談機関はない」が 822 件 (72.0%) で最も多く、次いで「生活者相談支援センター (県社協)」135 件 (11.8%) となっている。

図表 29 世話をしている家族が現在も過去もない人が、知っている又は利用したことがある相談機関・窓口



イ 世話をしている家族が現在も過去もない人が、知っている又は利用したことがある相談機関・窓口を世代別でみると、高校生世代は、「知っている相談機関はない」248件（66.3%）が最も多く、次いで「生活者相談支援センター（県社協）」54件（14.4%）、大学生世代は、「知っている相談機関はない」253件（72.3%）が最も多く、次いで「生活者相談支援センター（県社協）」40件（11.4%）、社会人世代は、「知っている相談機関はない」321件（76.8%）が最も多く、次いで「福祉事務所（生活保護など）」48件（11.5%）となっている。

図表 30 世話をしている家族が現在も過去もない人が、知っている又は利用したことがある相談機関・窓口（世代別）

カテゴリ	全体(n=1,142)		高校生世代(n=374)		大学生世代(n=350)		社会人世代(n=418)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
各市町のヤングケアラー相談窓口	117件	10.2%	45件	12.0%	33件	9.4%	39件	9.3%
精神保健福祉担当部局(自立支援医療など)	77件	6.7%	24件	6.4%	29件	8.3%	24件	5.7%
障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)	107件	9.4%	36件	9.6%	38件	10.9%	33件	7.9%
高齢・介護保険担当部局(介護保険サービスなど)	78件	6.8%	25件	6.7%	29件	8.3%	24件	5.7%
福祉事務所(生活保護など)	125件	10.9%	38件	10.2%	39件	11.1%	48件	11.5%
母子父子福祉センター(ひとり親支援など)	110件	9.6%	46件	12.3%	36件	10.3%	28件	6.7%
生活者相談支援センター(県社協)	135件	11.8%	54件	14.4%	40件	11.4%	41件	9.8%
その他の公的な相談機関	1件	0.1%	0件	0.0%	1件	0.3%	0件	0.0%
その他の民間の相談機関	1件	0.1%	0件	0.0%	1件	0.3%	0件	0.0%
知っている相談機関はない	822件	72.0%	248件	66.3%	253件	72.3%	321件	76.8%
n(% <sup>^</sup> -s)	1142件	100.0%	374件	100.0%	350件	100.0%	418件	100.0%

#### (14) 【相談しやすいと思う条件】

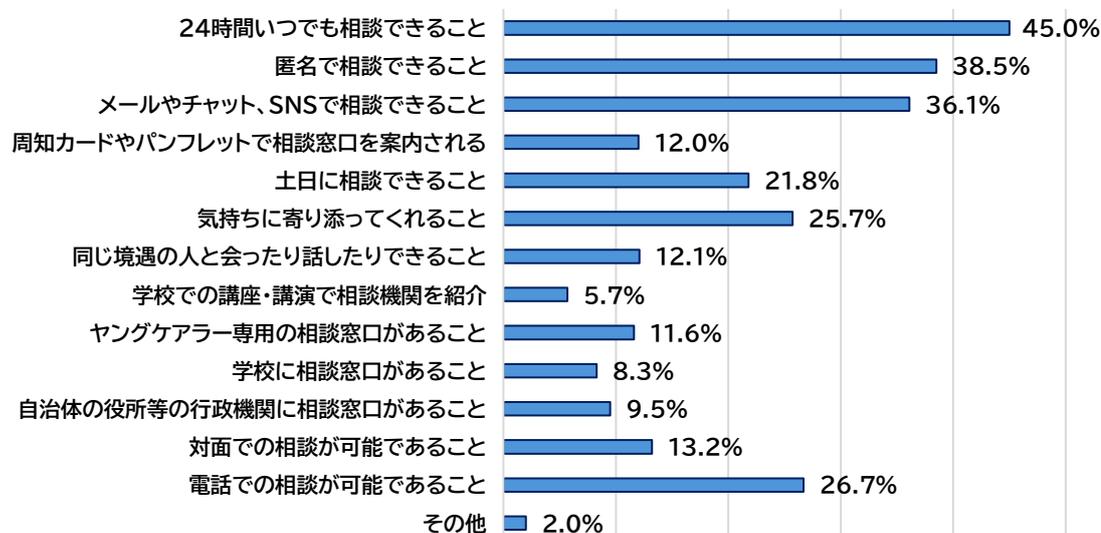
Q14-1. あなたが相談機関に相談しやすいと思う条件について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 相談機関に相談しやすいと思う条件は、「24時間いつでも相談できること」が675件(45.0%)で最も多く、次いで「匿名で相談できること」が578件(38.5%)、「メールやチャット、SNSで相談できること」が542件(36.1%)となっている。「その他」の内容として、「無料」「メッセージが送れること」「役に立つこと」「優しい人」「わからない」などとなっている。

図表 31 相談機関に相談しやすいと思う条件

n=1,500

(複数回答)



イ 相談機関に相談しやすいと思う条件を世代別で見ると、高校生世代は、「24時間いつでも相談できること」が228件(45.6%)で最も多く、次いで「匿名で相談できること」が204件(40.8%)、大学生世代は、「24時間いつでも相談できること」が205件(41.0%)で最も多く、次いで「匿名で相談できること」が188件(37.6%)、社会人世代は、「24時間いつでも相談できること」が242件(48.4%)で最も多く、次いで「匿名で相談できること」が186件(37.2%)となっている。

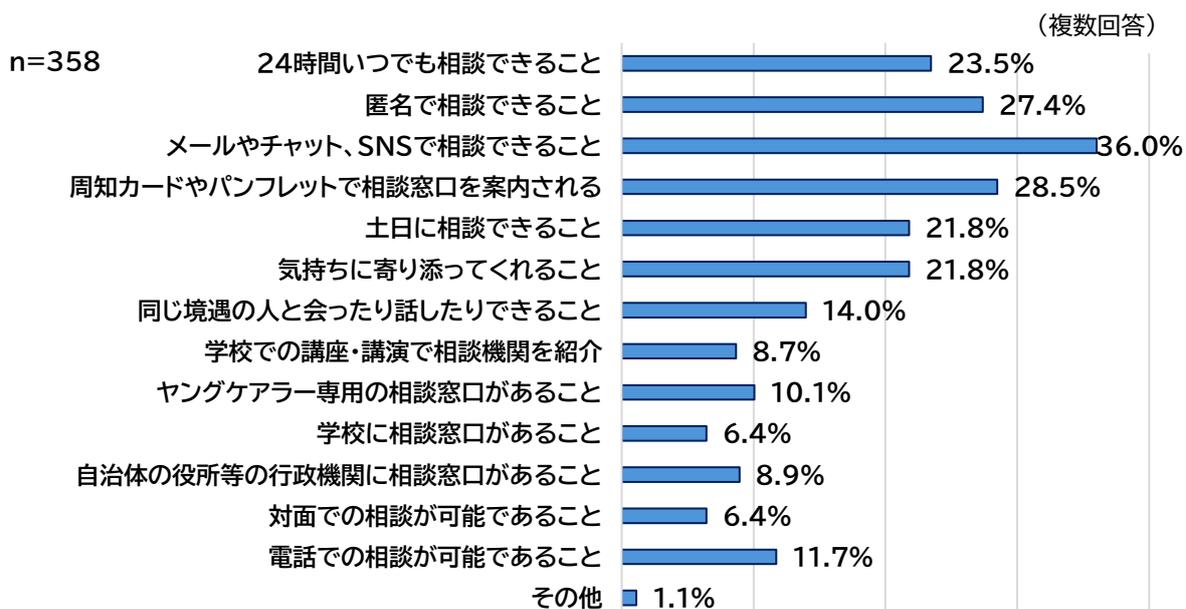
図表 32 相談機関に相談しやすいと思う条件（世代別）

カテゴリ	全体(n=1,500)		高校生世代(n=500)		大学生世代(n=500)		社会人世代(n=500)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
24時間いつでも相談できること	675件	45.0%	228件	45.6%	205件	41.0%	242件	48.4%
匿名で相談できること	578件	38.5%	204件	40.8%	188件	37.6%	186件	37.2%
メールやチャット、SNSで相談できること	542件	36.1%	192件	38.4%	182件	36.4%	168件	33.6%
周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される	180件	12.0%	63件	12.6%	67件	13.4%	50件	10.0%
土日に相談できること	327件	21.8%	104件	20.8%	92件	18.4%	131件	26.2%
気持ちに寄り添ってくれること	385件	25.7%	139件	27.8%	118件	23.6%	128件	25.6%
同じ境遇の人と会ったり話したりできること	182件	12.1%	62件	12.4%	65件	13.0%	55件	11.0%
学校での講座・講演で相談機関を紹介	85件	5.7%	28件	5.6%	26件	5.2%	31件	6.2%
ヤングケアラー専用の相談窓口があること	174件	11.6%	57件	11.4%	51件	10.2%	66件	13.2%
学校に相談窓口があること	124件	8.3%	46件	9.2%	39件	7.8%	39件	7.8%
自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	142件	9.5%	49件	9.8%	37件	7.4%	56件	11.2%
対面での相談が可能であること	198件	13.2%	62件	12.4%	50件	10.0%	86件	17.2%
電話での相談が可能であること	400件	26.7%	122件	24.4%	132件	26.4%	146件	29.2%
その他	30件	2.0%	11件	2.2%	14件	2.8%	5件	1.0%
n(% <sup>^</sup> -s)	1500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q14-2. あなたが相談機関に相談しやすいと思う条件について教えてください。  
 (あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族がいる(いた)人が相談しやすいと思う条件は、「メールやチャット、SNSで相談できること」が129件(36.0%)で最も多く、次いで「周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される」102件(28.5%)となっている。

図表 33 世話をしている家族がいる(いた)人が、相談機関に相談しやすいと思う条件



イ 世話をしている家族がいる（いた）人が相談しやすいと思う条件を世代別で見ると、高校生世代は、「メールやチャット、SNSで相談できること」が42件（33.3%）で最も多く、次いで「周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される」37件（29.4%）、大学生世代は、「メールやチャット、SNSで相談できること」が60件（40.0%）で最も多く、次いで「匿名で相談できること」46件（30.7%）、社会人世代は、「メールやチャット、SNSで相談できること」が27件（32.9%）で最も多く、次いで「周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される」22件（26.8%）となっている。

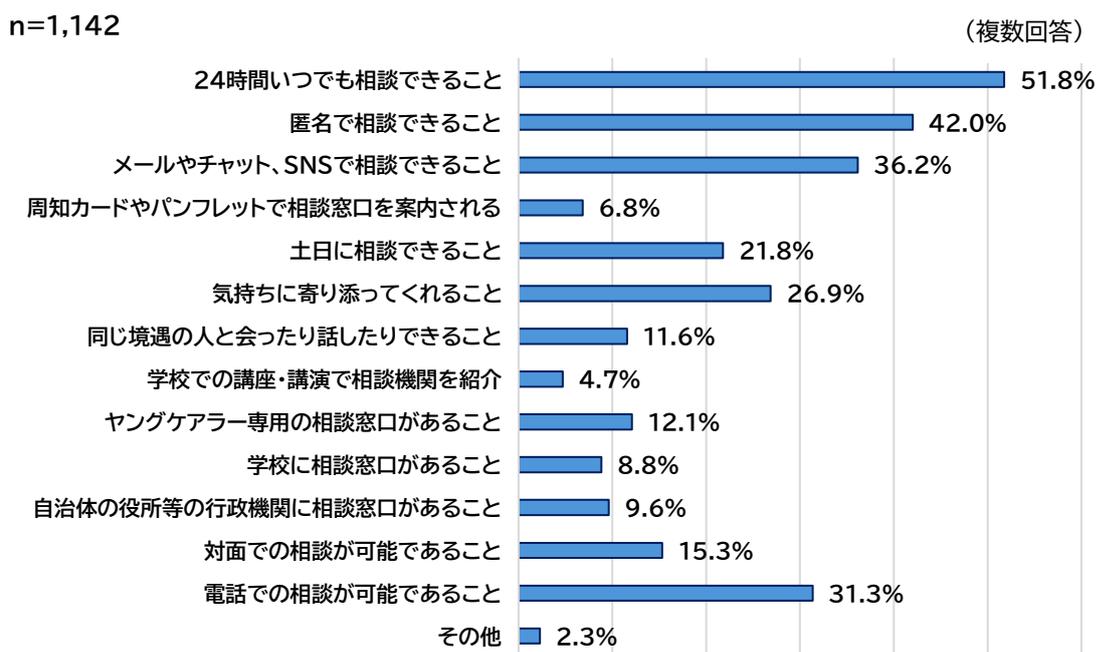
図表 34 世話をしている家族がいる（いた）人が、相談機関に相談しやすいと思う条件（世代別）

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
24時間いつでも相談できること	84件	23.5%	29件	23.0%	36件	24.0%	19件	23.2%
匿名で相談できること	98件	27.4%	34件	27.0%	46件	30.7%	18件	22.0%
メールやチャット、SNSで相談できること	129件	36.0%	42件	33.3%	60件	40.0%	27件	32.9%
周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される	102件	28.5%	37件	29.4%	43件	28.7%	22件	26.8%
土日に相談できること	78件	21.8%	26件	20.6%	32件	21.3%	20件	24.4%
気持ちに寄り添ってくれること	78件	21.8%	26件	20.6%	36件	24.0%	16件	19.5%
同じ境遇の人と会ったり話したりできること	50件	14.0%	17件	13.5%	23件	15.3%	10件	12.2%
学校での講座・講演で相談機関を紹介	31件	8.7%	7件	5.6%	14件	9.3%	10件	12.2%
ヤングケアラー専用の相談窓口があること	36件	10.1%	13件	10.3%	17件	11.3%	6件	7.3%
学校に相談窓口があること	23件	6.4%	5件	4.0%	13件	8.7%	5件	6.1%
自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	32件	8.9%	11件	8.7%	16件	10.7%	5件	6.1%
対面での相談が可能であること	23件	6.4%	10件	7.9%	9件	6.0%	4件	4.9%
電話での相談が可能であること	42件	11.7%	8件	6.3%	23件	15.3%	11件	13.4%
その他	4件	1.1%	1件	0.8%	1件	0.7%	2件	2.4%
n(% <sup>^</sup> -s)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

(世話をしている家族が現在も過去もない人に対して)  
 Q14-3. あなたが相談機関に相談しやすいと思う条件について教えてください。  
 (あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族が現在も過去もない人が、相談機関に相談しやすいと思う条件は、「24時間いつでも相談できること」が591件(51.8%)で最も多く、次いで「匿名で相談できること」480件(42.0%)となっている。

図表 35 世話をしている家族が現在も過去もない人が、相談機関に相談しやすいと思う条件



イ 世話をしている家族が現在も過去もない人が、相談機関に相談しやすいと思う条件を世代別にみると、高校生世代は、「24時間いつでも相談できること」が199件（53.2%）で最も多く、次いで「匿名で相談できること」170件（45.5%）、大学生世代は「24時間いつでも相談できること」が169件（48.3%）で最も多く、次いで「匿名で相談できること」142件（40.6%）、社会人世代は、「24時間いつでも相談できること」が223件（53.3%）で最も多く、次いで「匿名で相談できること」168件（40.2%）となっている。

図表 36 世話をしている家族が現在も過去もない人が、相談しやすいと思う条件（世代別）

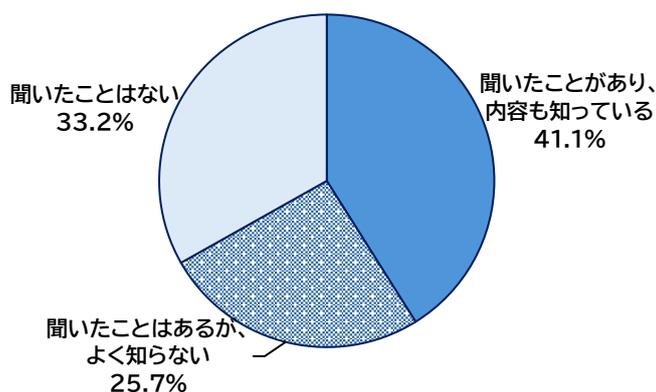
カテゴリ	全体(n=1,142)		高校生世代(n=374)		大学生世代(n=350)		社会人世代(n=418)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
24時間いつでも相談できること	591件	51.8%	199件	53.2%	169件	48.3%	223件	53.3%
匿名で相談できること	480件	42.0%	170件	45.5%	142件	40.6%	168件	40.2%
メールやチャット、SNSで相談できること	413件	36.2%	150件	40.1%	122件	34.9%	141件	33.7%
周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される	78件	6.8%	26件	7.0%	24件	6.9%	28件	6.7%
土日に相談できること	249件	21.8%	78件	20.9%	60件	17.1%	111件	26.6%
気持ちに寄り添ってくれること	307件	26.9%	113件	30.2%	82件	23.4%	112件	26.8%
同じ境遇の人と会ったり話したりできること	132件	11.6%	45件	12.0%	42件	12.0%	45件	10.8%
学校での講座・講演で相談機関を紹介	54件	4.7%	21件	5.6%	12件	3.4%	21件	5.0%
ヤングケアラー専用の相談窓口があること	138件	12.1%	44件	11.8%	34件	9.7%	60件	14.4%
学校に相談窓口があること	101件	8.8%	41件	11.0%	26件	7.4%	34件	8.1%
自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること	110件	9.6%	38件	10.2%	21件	6.0%	51件	12.2%
対面での相談が可能であること	175件	15.3%	52件	13.9%	41件	11.7%	82件	19.6%
電話での相談が可能であること	358件	31.3%	114件	30.5%	109件	31.1%	135件	32.3%
その他	26件	2.3%	10件	2.7%	13件	3.7%	3件	0.7%
n(% <sup>^</sup> -λ)	1142件	100.0%	374件	100.0%	350件	100.0%	418件	100.0%

(15) 【「ヤングケアラー」の認知度】

Q15—1. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。  
(どれかひとつを選択)

ア 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかは、「聞いたこと  
があり、内容も知っている」が617件(41.1%)、「聞いたことはあるが、よく知ら  
ない」が385件(25.7%)、「聞いたことはない」が498件(33.2%)となっている。

図表 37 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか  
n=1,500



イ 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかを世代別でみると、高校生世代は、「聞いたことあり、内容も知っている」が201件(40.2%)、「聞いたことはない」が151件(30.2%)、大学生世代は、「聞いたことあり、内容も知っている」が223件(44.6%)、「聞いたことはない」が155件(31.0%)、社会人世代は、「聞いたことあり、内容も知っている」が193件(38.6%)、「聞いたことはない」が192件(38.4%)となっている。

図表 38 認知度 (世代別)

カテゴリ	全体(n=1,500)		高校生世代(n=500)		大学生世代(n=500)		社会人世代(n=500)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
聞いたことあり、内容も知っている	617件	41.1%	201件	40.2%	223件	44.6%	193件	38.6%
聞いたことはあるが、よく知らない	385件	25.7%	148件	29.6%	122件	24.4%	115件	23.0%
聞いたことはない	498件	33.2%	151件	30.2%	155件	31.0%	192件	38.4%
n(% <sup>^</sup> -s)	1500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
 Q15—2.「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。  
 (どれかひとつを選択)

ア 世話をしている家族がいる(いた)人が、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかは、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 180 件 (50.3%) であった。

イ 世話をしている家族がいる(いた)人が、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかを世代別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」が、高校生世代は 63 件 (50.0%)、大学生世代は 79 件 (52.7%)、社会人世代は 38 件 (46.3%) となっている。

図表 39 世話をしている家族がいる(いた)人の認知度(世代別)

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
聞いたことがあり、内容も知っている	180件	50.3%	63件	50.0%	79件	52.7%	38件	46.3%
聞いたことはあるが、よく知らない	104件	29.1%	40件	31.7%	40件	26.7%	24件	29.3%
聞いたことはない	74件	20.7%	23件	18.3%	31件	20.7%	20件	24.4%
n(% <sup>^</sup> -s)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

(世話をしている家族が現在も過去もない人に対して、)  
 Q15—3.「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。  
 (どれかひとつを選択)

ア 世話をしている家族が現在も過去もない人が、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかは、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 437 件 (38.3%) となっている。

イ 世話をしている家族が現在も過去もない人が、「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかを世代別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」が、高校生世代は 138 件 (36.9%)、大学生世代は 144 件 (41.1%)、社会人世代は 155 件 (37.1%) となっている。

図表 40 世話をしている家族が現在も過去もない人の認知度(世代別)

カテゴリ	全体(n=1,142)		高校生世代(n=374)		大学生世代(n=350)		社会人世代(n=418)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
聞いたことがあり、内容も知っている	437件	38.3%	138件	36.9%	144件	41.1%	155件	37.1%
聞いたことはあるが、よく知らない	281件	24.6%	108件	28.9%	82件	23.4%	91件	21.8%
聞いたことはない	424件	37.1%	128件	34.2%	124件	35.4%	172件	41.1%
n(% <sup>^</sup> -s)	1142件	100.0%	374件	100.0%	350件	100.0%	418件	100.0%

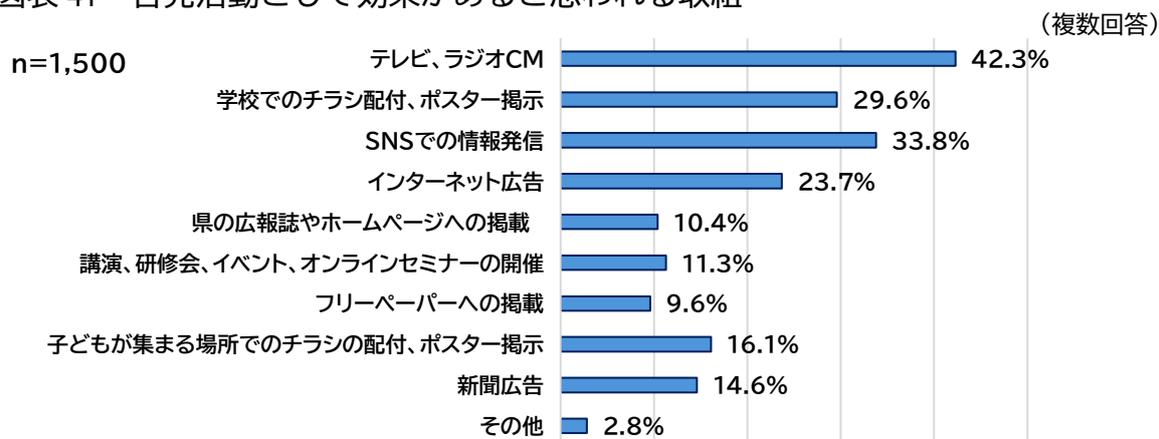
(16) 【啓発活動として効果があると思われる取組】

Q16-1. 三重県では、ヤングケアラーへの理解を深めていただくため、様々な啓発活動を行なっています。啓発活動として効果があると思われる取組について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 啓発活動として効果があると思われる取組は、「テレビ、ラジオCM」が 635 件 (42.3%) で最も多く、次いで「SNSでの情報発信」が 507 件 (33.8%)、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が 444 件 (29.6%) となっている。

「その他」の内容として、「ドラマや映画にする」「漫画」「特になし」「分からない」などとなっている。

図表 41 啓発活動として効果があると思われる取組



イ 啓発活動として効果があると思われる取組を世代別でみると、高校生世代は、「テレビ、ラジオCM」が 212 件 (42.4%) で最も多く、次いで「SNSでの情報発信」が 170 件 (34.0%)、大学生世代は、「テレビ、ラジオCM」が 207 件 (41.4%) で最も多く、次いで「SNSでの情報発信」が 167 件 (33.4%)、社会人世代は、「テレビ、ラジオCM」が 216 件 (43.2%) で最も多く、次いで「SNSでの情報発信」が 170 件 (34.0%) となっている。

図表 42 啓発活動として効果があると思われる取組 (世代別)

カテゴリ	全体(n=1,500)		高校生世代(n=500)		大学生世代(n=500)		社会人世代(n=500)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
テレビ、ラジオCM	635件	42.3%	212件	42.4%	207件	41.4%	216件	43.2%
学校でのチラシ配付、ポスター掲示	444件	29.6%	166件	33.2%	144件	28.8%	134件	26.8%
SNSでの情報発信	507件	33.8%	170件	34.0%	167件	33.4%	170件	34.0%
インターネット広告	356件	23.7%	126件	25.2%	99件	19.8%	131件	26.2%
県の広報誌やホームページへの掲載	156件	10.4%	49件	9.8%	51件	10.2%	56件	11.2%
講演、研修会、イベント、オンラインセミナーの開催	170件	11.3%	51件	10.2%	67件	13.4%	52件	10.4%
フリーペーパーへの掲載	144件	9.6%	49件	9.8%	39件	7.8%	56件	11.2%
子どもが集まる場所でのチラシの配付、ポスター掲示	242件	16.1%	75件	15.0%	71件	14.2%	96件	19.2%
新聞広告	219件	14.6%	64件	12.8%	74件	14.8%	81件	16.2%
その他	42件	2.8%	10件	2.0%	18件	3.6%	14件	2.8%
n(% <sup>^</sup> -)	1500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%	500件	100.0%

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)

Q16-2. 三重県では、ヤングケアラーへの理解を深めていただくため、様々な啓発活動を行なっています。啓発活動として効果があると思われる取組について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族がいる(いた)人が、啓発活動として効果があると思われる取組は、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が155件(43.3%)で最も多く、次いで「SNSでの発信」128件(35.8%)となっている。

イ 世話をしている家族がいる(いた)人が、啓発活動として効果があると思われる取組を世代別でみると、高校生世代は、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が53件(42.1%)で最も多く、次いで「テレビ、ラジオCM」47件(37.3%)、大学生世代は、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が64件(42.7%)で最も多く、次いで「テレビ、ラジオCM」56件(37.3%)、社会人世代は、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が38件(46.3%)で最も多く、次いで「SNSでの情報発信」30件(36.6%)となっている。

図表 43 世話をしている家族がいる(いた)人が、啓発活動として効果があると思われる取組(世代別)

カテゴリ	全体(n=358)		高校生世代(n=126)		大学生世代(n=150)		社会人世代(n=82)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
テレビ、ラジオCM	125件	34.9%	47件	37.3%	56件	37.3%	22件	26.8%
学校でのチラシ配付、ポスター掲示	155件	43.3%	53件	42.1%	64件	42.7%	38件	46.3%
SNSでの情報発信	128件	35.8%	43件	34.1%	55件	36.7%	30件	36.6%
インターネット広告	94件	26.3%	29件	23.0%	40件	26.7%	25件	30.5%
県の広報誌やホームページへの掲載	52件	14.5%	13件	10.3%	25件	16.7%	14件	17.1%
講演、研修会、イベント、オンラインセミナーの開催	49件	13.7%	13件	10.3%	25件	16.7%	11件	13.4%
フリーペーパーへの掲載	45件	12.6%	18件	14.3%	18件	12.0%	9件	11.0%
子どもが集まる場所でのチラシの配付、ポスター掲示	45件	12.6%	9件	7.1%	22件	14.7%	14件	17.1%
新聞広告	36件	10.1%	10件	7.9%	19件	12.7%	7件	8.5%
その他	8件	2.2%	2件	1.6%	3件	2.0%	3件	3.7%
n(% <sup>^</sup> -)	358件	100.0%	126件	100.0%	150件	100.0%	82件	100.0%

(世話をしている家族が現在も過去もない人に対して)  
 Q16-3. 三重県では、ヤングケアラーへの理解を深めていただくため、様々な啓発活動を行なっています。啓発活動として効果があると思われる取組について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

ア 世話をしている家族が現在も過去もない人が啓発活動として効果があると思われる取組は、「テレビ、ラジオCM」が510件(44.7%)で最も多く、次いで「SNSでの情報発信」379件(33.2%)となっている。

イ 世話をしている家族が現在も過去もない人が啓発活動として効果があると思われる取組を世代別でみると、高校生世代は、「テレビ、ラジオCM」が165件(44.1%)で最も多く、次いで「SNSでの発信」127件(34.0%)、大学生世代は、「テレビ、ラジオCM」が151件(43.1%)で最も多く、次いで「SNSでの発信」112件(32.0%)、社会人世代は、「テレビ、ラジオCM」が194件(46.4%)で最も多く、次いで「SNSでの発信」140件(33.5%)となっている。

図表 44 世話をしている家族が現在も過去もない人が、啓発活動として効果があると思われる取組(世代別)

カテゴリ	全体(n=1,142)		高校生世代(n=374)		大学生世代(n=350)		社会人世代(n=418)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
テレビ、ラジオCM	510件	44.7%	165件	44.1%	151件	43.1%	194件	46.4%
学校でのチラシ配付、ポスター掲示	289件	25.3%	113件	30.2%	80件	22.9%	96件	23.0%
SNSでの情報発信	379件	33.2%	127件	34.0%	112件	32.0%	140件	33.5%
インターネット広告	262件	22.9%	97件	25.9%	59件	16.9%	106件	25.4%
県の広報誌やホームページへの掲載	104件	9.1%	36件	9.6%	26件	7.4%	42件	10.0%
講演、研修会、イベント、オンラインセミナーの開催	121件	10.6%	38件	10.2%	42件	12.0%	41件	9.8%
フリーペーパーへの掲載	99件	8.7%	31件	8.3%	21件	6.0%	47件	11.2%
子どもが集まる場所でのチラシの配付、ポスター掲示	197件	17.3%	66件	17.6%	49件	14.0%	82件	19.6%
新聞広告	183件	16.0%	54件	14.4%	55件	15.7%	74件	17.7%
その他	34件	3.0%	8件	2.1%	15件	4.3%	11件	2.6%
n(% <sup>^</sup> -)	1142件	100.0%	374件	100.0%	350件	100.0%	418件	100.0%

(17) 【ヤングケアラーに必要なだと思う支援やサポート、要望など】

(世話をしている家族がいる(いた)人に対して)  
Q17-1. ヤングケアラーに必要なだと思う支援やサポート、要望などがあれば教えてください。(自由記述)

ア ヤングケアラーの理解、普及啓発

【高校生世代】

- ・世の中の理解
- ・ヤングケアラーに必要な知識と適切な対応を学んで、無理のない支援やサポートに取り組める環境づくりが大切

【大学生世代】

- ・サービス内容の宣伝
- ・もっと支援を広めて欲しい
- ・子どもが世話をすることに対してその保護者に対する理解を図ることが必要

【社会人世代】

- ・ネットでの情報発信
- ・施設の紹介など

イ 相談窓口、相談体制の充実

【高校生世代】

- ・気軽に相談できる窓口
- ・より親身になって寄り添ってくれる機関
- ・いつでも相談しやすいところ
- ・24時間相談体制

【大学生世代】

- ・話を聞いてほしい
- ・相談支援
- ・家族以外に第三者も含めて話し合いができたらい
- ・手厚い優遇措置の必要性と、抱えている悩み相談でアドバイスしてくれるサポート

【社会人世代】

- ・相談できる場所

ウ 教育・学習の支援

【高校生世代】

- ・欠席日数(自分が理由ではない)への配慮

エ 周囲の理解や寄り添い

【高校生世代】

- ・気持ちへの寄り添い
- ・まずその存在に気付いてあげること。本当に辛い子は誰にも話さず抱え込んでいる

【大学生世代】

- ・家族や職場の人たちの気遣いや制度など

## オ 支援内容、支援の充実

### 【高校生世代】

- ・自分たちが介護をしなくても良いように、支援サービスを徹底させること
- ・その子がしたいと思えることをできるように、支援してあげてほしい
- ・経済的な支援が一番ありがたいが、気持ちを吐ける場所を作ってくれることが大事
- ・モチベーションの維持のサポートと、やりがいを感じられる環境は大切

### 【大学生世代】

- ・手続きが楽で、すぐに預ける場所が欲しい。何をするにも手続きに時間がかかり難しいから、親身に教えて欲しい
- ・将来の見通しがつかなくて苦しいから、支援や援助があることを教えて欲しい
- ・自由にしてくれる福祉援助がほしい
- ・子どもの時間を作る
- ・サポート機関を増やして欲しい

### 【社会人世代】

- ・心身のケア
- ・行政の財政支援及び人的支援

## カ 経済的な支援

### 【高校生世代】

- ・お金、金銭的支援

### 【大学生世代】

- ・金銭的支援

### 【社会人世代】

- ・金銭的支援

## キ その他意見

### 【高校生世代】

- ・色々な話を聞いて欲しいので、一人ではなく多くの人の意見が聞きたい

### 【大学生世代】

- ・親のエゴで動く生活が嫌なのでどうにか親が責任をもって育てて欲しい

(世話をしている家族が現在も過去にもいない人に対して)  
Q17-2. ヤングケアラーに必要なと思う支援やサポート、要望などがあれば教えてください。(自由記述)

## ア ヤングケアラーの理解、普及啓発

### 【高校生世代】

- ・学校等でのお知らせ
- ・ヤングケアラーに関する情報提供
- ・情報の発信
- ・すぐに相談できるところの紹介
- ・サポート団体の紹介など市から個人へ発信

### 【大学生世代】

- ・子どもたちへの周知が必要
- ・もっとみんなにわかってもらえるような場所に掲載する
- ・助けを求めやすい場所を作る。それが普通ではないことを伝える。ヤングケアラーという言葉をもっと知ってもらう

### 【社会人世代】

- ・周知活動が大切
- ・子ども達の目に触れる場所(教科書、SNSなど)で、ヤングケアラーの身体的精神的苦勞を軽減できるサービス等の情報を発信する
- ・ヤングケアラーの親族に対して、ヤングケアラーの子供がいることに問題意識を持たせる啓発活動を行う
- ・情報の伝達、SNSや動画の広告
- ・学校などでまずは存在を知ってもらうこと

## イ 相談窓口、相談体制の充実

### 【高校生世代】

- ・まずは相談できる場があることを知ってもらうことが大切
- ・匿名でもしっかり対応してくれること
- ・匿名性の高い相談方法があれば、利用しやすいと感じる人も増える
- ・相談しやすさ
- ・本人が罪悪感を抱くことなく気楽に頼れる場所が必要
- ・親身になってくれる、業務的でない接し方をしてくれる
- ・子どもにもわかりやすいこと
- ・学校や役所で相談を出来る環境を作ること
- ・いつでも気軽に相談できるフリーダイヤルがたくさんあればいい
- ・誰でも自由に気軽に相談出来る環境を作るべき
- ・居場所づくり、悩みを聞く場を作る
- ・子どもの意見をしっかりと会話から引き出すこと

### 【大学生世代】

- ・相談しやすい環境を作ること
- ・相談できる場所
- ・一人で抱え込ませない
- ・いつでも相談しやすい窓口や機関の設置
- ・常に相手に寄り添ってくれる親身な対応
- ・無料相談
- ・LINE等で気軽に相談できること

- ・短時間で相談できるかどうかが重要
  - ・ヤングケアラーと被介護者双方の意見や話を聞いてその後の対応を決める動きがあるといい
  - ・悩みを話せる場をつくる
  - ・同じ環境の人と繋がれる支援
  - ・コミュニティやグループを作る
- 【社会人世代】
- ・相談しやすい環境
  - ・ネットで相談できると嬉しい
  - ・LINEで相談できる
  - ・時間帯を問わず、無料で相談できる窓口
  - ・月に何度か自宅に訪問して悩みや現状を相談でき、対処してくれるサポート

## ウ 教育・学習の支援

### 【高校生世代】

- ・勉強に集中させてあげられる環境
- ・周りの先生や生徒が小さな変化に気づいて声掛けをする

### 【大学生世代】

- ・学校からの理解
- ・学校での講演や心理相談等を通じて心のケアをしていく

### 【社会人世代】

- ・金銭的支援は前提として学校での教育格差が生まれないよう補講等を行う必要がある

## エ 周囲の理解や寄り添い

### 【高校生世代】

- ・精神的な支援、気持ちへの寄り添い、常に寄り添うこと

### 【大学生世代】

- ・周りの頼れる人

### 【社会人世代】

- ・相手の気持ちに寄り添う

## オ 支援内容、支援の充実

### 【高校生世代】

- ・ボランティアによる支援
- ・本当に必要とする人に支援が届くこと
- ・時間の確保ができるようなサポート
- ・自分のための時間を作ってあげることや長期的な支援
- ・定期的な自宅訪問
- ・担っているケアを十分に代われる福祉
- ・公的サポート
- ・問題に対して寄り添うのではなく、解決をサポートし、対策を考えてくれること
- ・同世代と同じような機会や経験を得られるように学校や地域などでの柔軟なサポート

### 【大学生世代】

- ・放課後などの時間を自由に使える日があること
- ・定期的な訪問
- ・無料でヘルパーを派遣

- ・お世話を手伝ってくれる人
- ・まずは簡単に助けを求められるような施設の提供
- ・休みの制度 無償化であずけてヤングケアラーの方を休ませる制度を用いる
- ・友達と遊んだり、部活に行けたり、好きな習い事ができる環境を作ることが必要
- ・支援が必要な親は、1日だけ施設に入ってもらったり通所サービス等があるといい
- ・ヤングケアラーのためのインターネットサイト。ヤングケアラーあるあるの募集、どのような支援が受けられるか Yes・No チャートでかんたん診断、自身の住む地域ではどのような支援団体があるのかわかりやすく見られるマップ
- ・まずは色々な人に知ってもらうこと。当事者への金銭的な支援だけでなく、その人が家族のケアだけじゃなくその人の人生を楽しめるような時間を確保してもらう
- ・週3日勤務や週1日勤務などの週5日勤務ではない自由シフトの働きかたができる就職場所が増えてほしい

#### 【社会人世代】

- ・心のサポート、メンタルケア
- ・定期的な面会
- ・気軽に優しいカウンセラーに相談できたり数時間だけでも援助を頼める行政サポートがあれば良い
- ・一時的にでも、自分の代わりに介護をしてもらえること
- ・要支援者の施設入所や在宅サービスによる支援により、負担を軽減すること
- ・行政等で相談や解決策を示す
- ・家族の世話の負担を減らす
- ・家事や介護の肩代わりサポートをしてケアラーを定期的に休ませる（家庭に家政婦を派遣する等）
- ・勉強できる環境
- ・一時的に家族から離れることができる期間があるといい
- ・自分以外にも手伝ってくれる人を設けること。無償で
- ・子どもの隔離避難と世帯支援
- ・寄り添いも必要だが、相談者に合った、危機から抜け出す方法を具体的に教えたり、対応してくれることが必要
- ・子どもが親と離れたいという意志を尊重するべき

### カ 経済的な支援

#### 【高校生世代】

- ・金銭的な支援
- ・支援金の給付
- ・生活に必要なお金の助成
- ・高齢者を預けるところの費用を安くする

#### 【大学生世代】

- ・資金援助
- ・給付金
- ・学費の免除や金銭的援助
- ・子どもが学びや集団生活に集中できるよう金銭的サポート、日中の訪問介護等の無償化など

#### 【社会人世代】

- ・補助的な介護援助や資金支援
- ・お金、勉強時間の確保など
- ・金銭面や臨機応変な仕事先
- ・学校に行ったり友達と遊んだり若者の青春ができるような経済支援

## キ その他意見

### 【高校生世代】

- ・高齢者施設がもっと必要
- ・地域の自治会が、行政の担当窓口に通報

### 【大学生世代】

- ・子ども食堂が近場にあったら便利
- ・具体的には思いつかない。ヤングケアラーである人(だった人)の意見を重視するといい

### 【社会人世代】

- ・教育委員会とコラボ
- ・ヤングケアラーの人々が同士で話し合い、支え合う機会があれば、気持ちの面でもかなり楽になる

## 2 令和4年度調査との比較

調査対象は異なるものの、以下の項目について、令和4年度に実施した調査結果と今回の調査結果の比較を行った。

令和4年度調査対象等：中学生以上22歳以下の子ども・若者を対象に、ヤングケアラーの実態把握等を目的としてアンケート調査をWEB方式により実施、604人回答

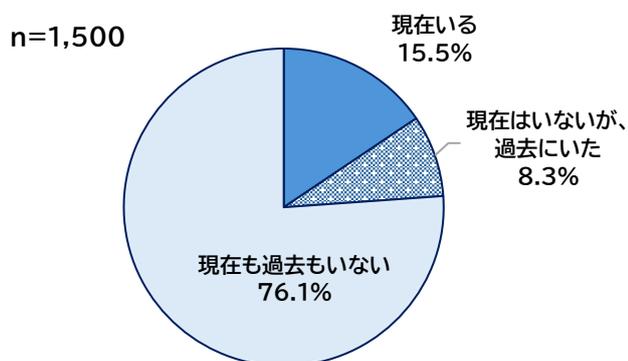
### (1) 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無について、今回の調査では「現在いる」が15.5%、「現在はいないが、過去にいた」8.3%となっている。

令和4年度調査では「現在いる」が7.6%、「現在はいないが、過去にいた」3.1%で、いずれも7年度調査では高くなっている。

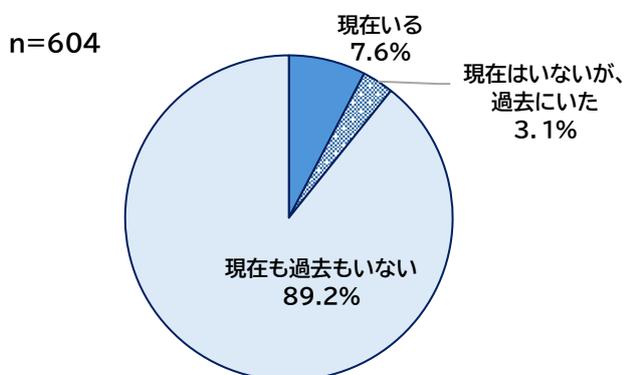
### 【令和7年度調査】

図表3 世話をしている家族の有無



### 【令和4年度調査】

図表① 世話をしている家族の有無



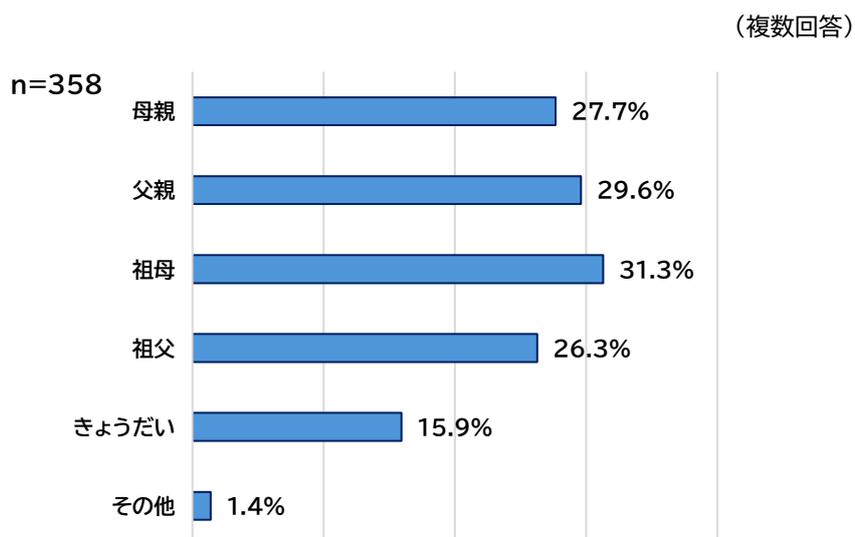
(2) 世話を必要としている方

世話を必要としている方について、今回の調査では「祖母」が31.3%、「父親」29.6%、「母親」27.7%となっている。

令和4年度調査では「母親」が58.5%、「父親」41.5%、「祖母」27.7%で、どちらの調査でも上位3つの属性は同じであった。

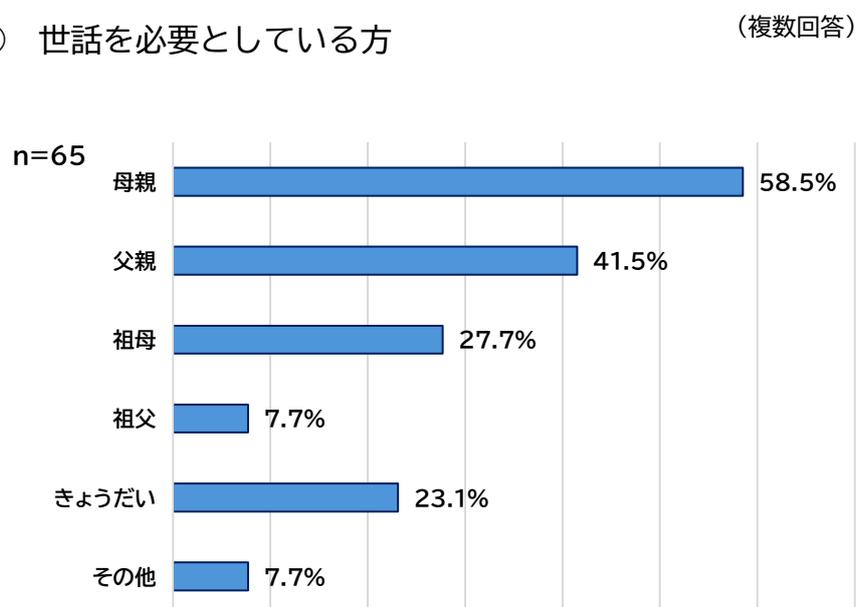
【令和7年度調査】

図表7 世話を必要としている方



【令和4年度調査】

図表② 世話を必要としている方



### (3) 世話の内容

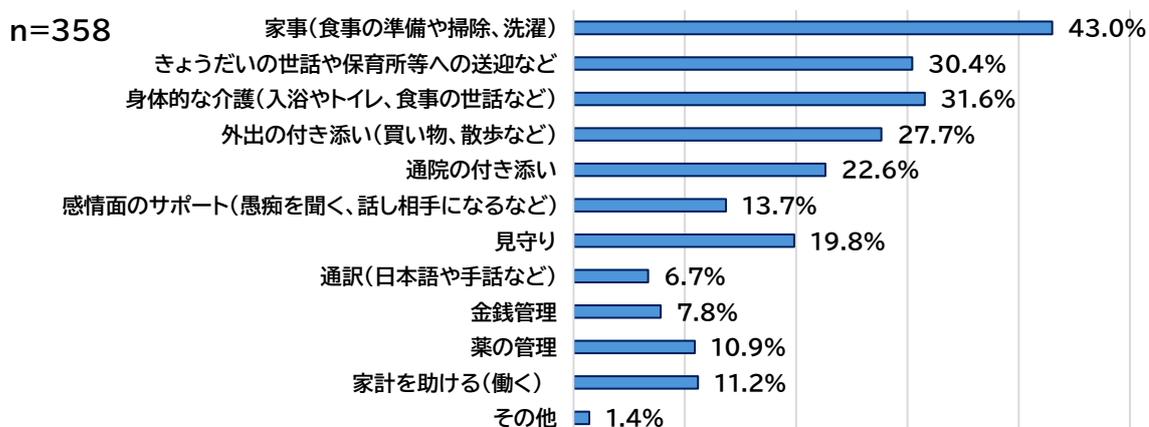
世話の内容について、今回の調査では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が43.0%、「身体的な介護（入浴やトイレ、食事の世話など）」31.6%、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」30.4%となっている。

令和4年度調査では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が53.8%、「見守り」38.5%、「外出の付き添い」24.6%で、どちらの調査でも「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も高い割合であった。

#### 【令和7年度調査】

図表11 世話の内容

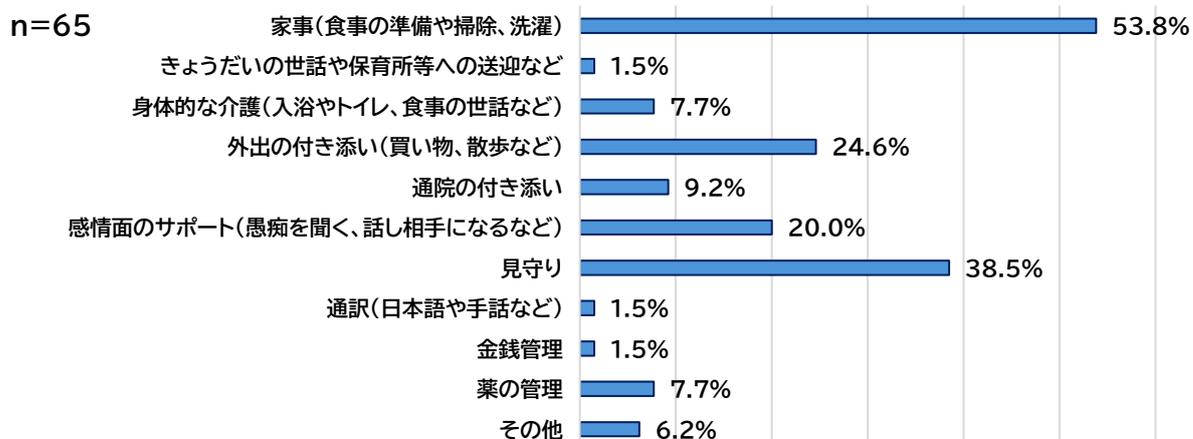
(複数回答)



#### 【令和4年度調査】

図表③ 世話の内容

(複数回答)



#### (4) 世話を誰と行っているか

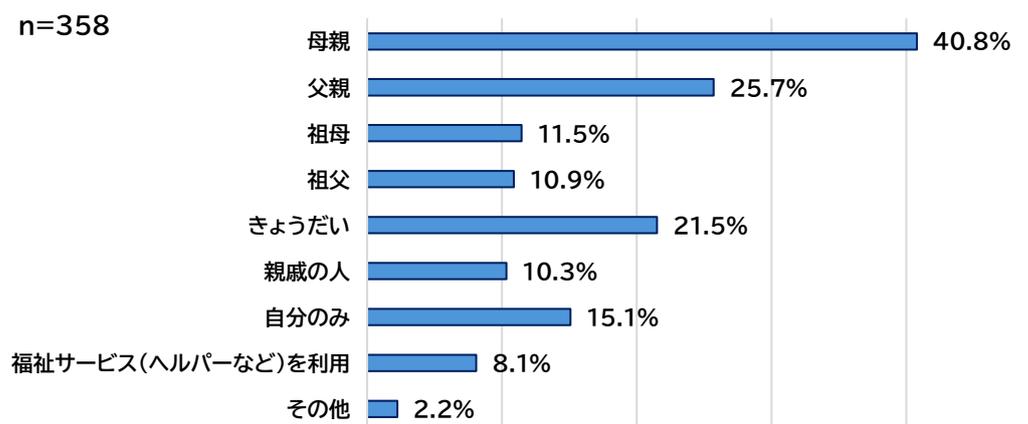
世話を誰と行っているかについて、今回の調査では「母親」が40.8%、「父親」25.7%、「きょうだい」21.5%、「自分のみ」15.1%となっている。

令和4年度調査では「母親」が50.8%、「父親」35.4%、「自分のみ」26.2%、「きょうだい」20.0%で、「自分のみ」の割合が7年度調査では減少している。

#### 【令和7年度調査】

図表13 世話を誰と行っているか

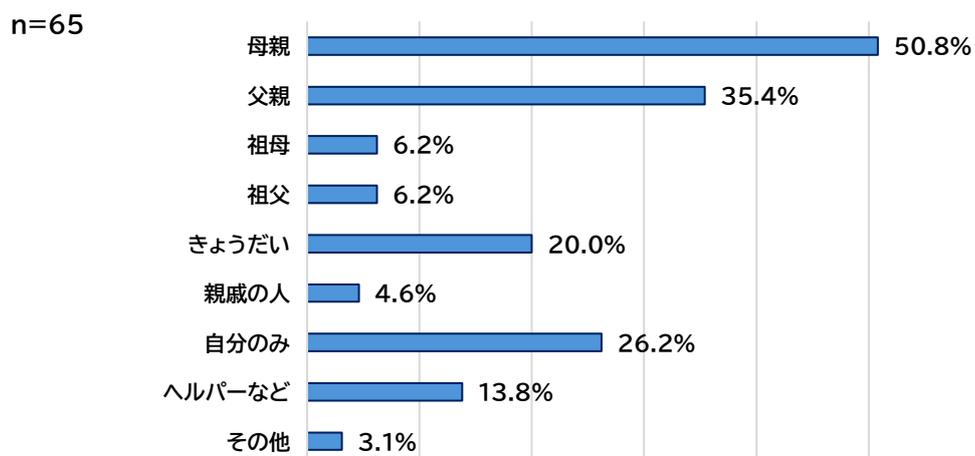
(複数回答)



#### 【令和4年度調査】

図表④ 世話を誰と行っているか

(複数回答)



#### (5) 悩みや問題をどこに相談したか

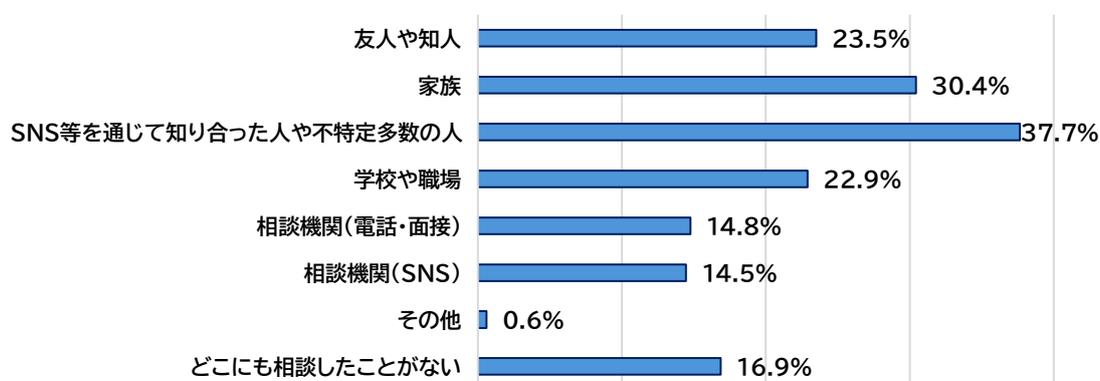
悩みや問題をどこに相談したかについて、今回の調査では「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が37.7%、「家族」30.4%、「友人や知人」23.5%、また、「どこにも相談したことがない」は16.9%となっている。

令和4年度調査では「家族」が23.1%、「SNS上の知り合い」「学校の先生」「交際相手」3.1%、また、「どこにも相談したことがない」は61.5%で、7年度調査では、「SNS等を通じて知り合った人」などが増加しているとともに、「どこにも相談したことがない」が大きく減少している。

#### 【令和7年度調査】

図表19 悩みや問題をどこに相談したか

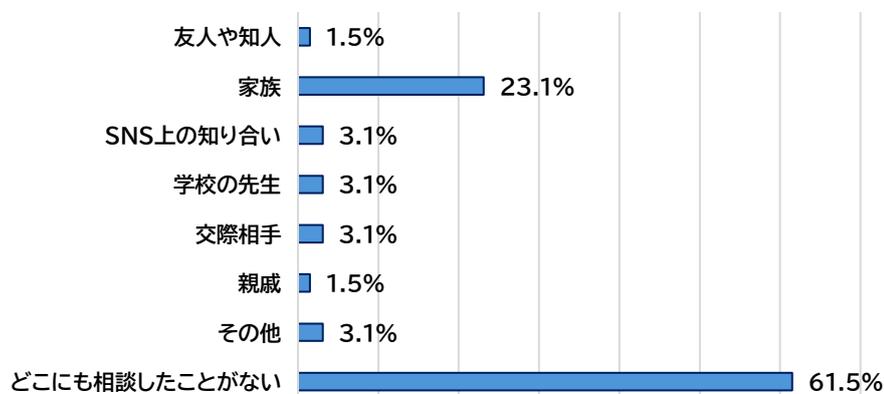
n=332



#### 【令和4年度調査】

図表⑤ 悩みや問題をどこに相談したか

n=65



## (6) 相談しなかった、またはできなかった理由

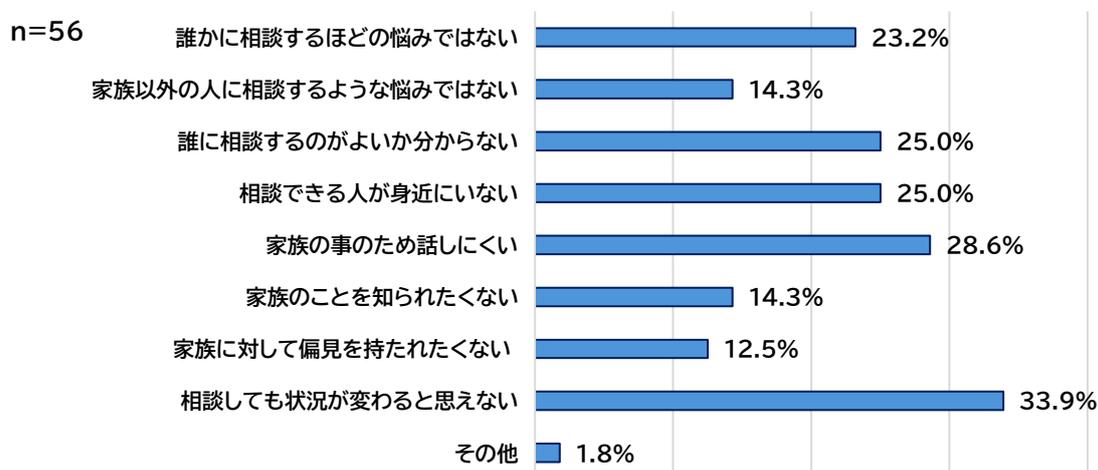
相談しなかった、またはできなかった理由について、今回の調査では「相談しても状況が変わると思えない」が33.9%、「家族の事のため話しにくい」28.6%、「誰に相談するのがよいか分からない」、「相談できる人が身近にいない」25.0%となっている。

令和4年度調査では「誰かに相談するほどの悩みではない」が52.5%、「相談しても状況が変わると思えない」32.5%、「誰に相談するのがよいか分からない」15.0%で、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合は、7年度調査では大きく減少するとともに、「相談しても状況が変わると思えない」は、どちらの調査でも高い割合であった。

### 【令和7年度調査】

図表 21 相談しなかった、またはできなかった理由

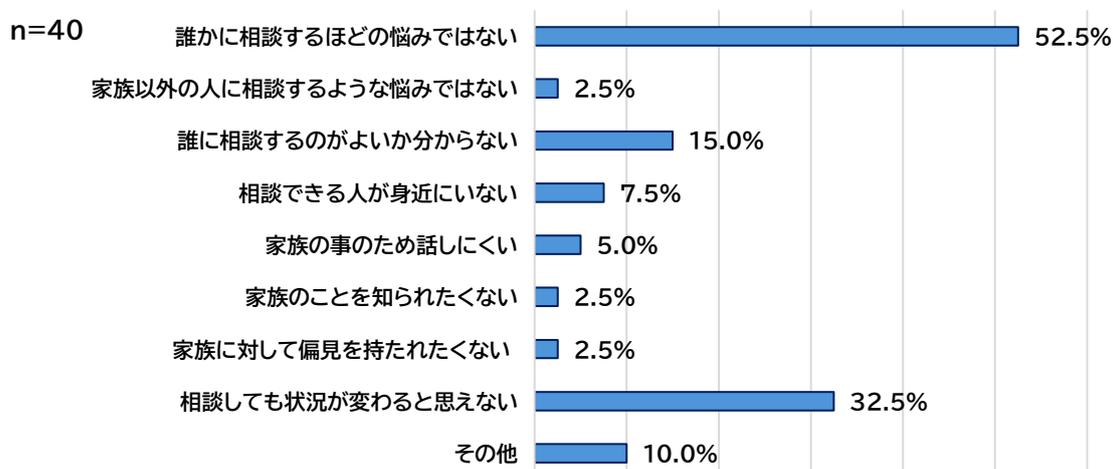
(複数回答)



### 【令和4年度調査】

図表⑥ 相談しなかった、またはできなかった理由

(複数回答)



### (7) 「ヤングケアラー」の認知度

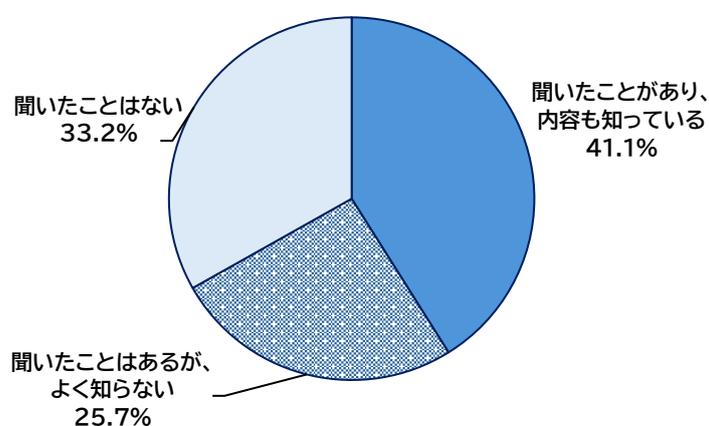
「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかについて、今回の調査では「聞いたことがあり、内容も知っている」が41.1%、「聞いたことはあるが、よく知らない」25.7%、「聞いたことはない」33.2%となっている。

令和4年度調査では、それぞれ順に48.3%、16.6%、35.1%で、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合が、7年度調査では減少している。

#### 【令和7年度調査】

図表37 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか

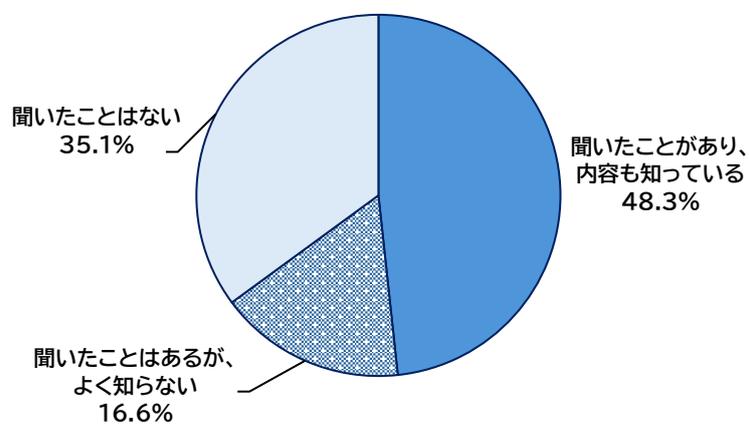
n=1,500



#### 【令和4年度調査】

図表⑦ 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか

n=604



### 3 アンケート調査結果のまとめ・考察

#### (1) 子ども・若者の世話の現状

ア 世話をしている家族の有無は、「現在いる」が15.5%、「現在はいないが、過去にいた」が8.3%であった。令和4年度調査と比較すると、順に7.6%、3.1%で、その割合は大きく増加している。

回答にあたっては、ヤングケアラーの定義や状態像（イラスト）を示して、これを踏まえて設問にお答えくださいとしているが、明確な基準はなく、お手伝い程度の世話も含まれている可能性がある。

また、「ヤングケアラー」という言葉を「これまでに聞いたことがあり、内容も知っている」という認知度調査では、今回が41.1%、令和4年度調査が48.3%で、ヤングケアラーに対する認識が低かったことも影響しているものと思われる。

なお、設問では、あくまでも世話をしている家族の有無を尋ねたもので、ヤングケアラーかどうかは事案ごとの個別の判断となる。（Q3ア関係）

イ 世代別では、「現在いる」が高校生世代で16.4%、大学生世代19.0%、社会人世代11.2%、また、「現在はいないが、過去にいた」では、高校生世代が8.8%、大学生世代が11.0%、社会人世代が5.2%で、その割合はいずれも高校生世代と大学生世代が社会人世代よりも高い。（Q3イ関係）

ウ 世話をしている家族がいる（いた）人について、職種別では、「高校生」が30.4%で最も高く、次いで「正社員（常時雇用されている一般従業者）」28.5%、「学生（大学・短大・専門学校などを含む）」22.9%で、高校生や大学生など学生が50%を超えている。

世話をしている家族の有無により、教育に関して職種に違いが見受けられるかについては、世代別で高校生世代の「高校生」について、「現在いる（いた）」人では86.5%、「現在も過去もない」人では90.9%、大学生世代の「学生（大学・短大・専門学校などを含む）」については、それぞれ47.3%、54.3%で、どちらの世代も「現在いる（いた）」人の割合が「現在も過去もない」人よりも低く、世話をしている家族がいる（いた）ことにより、進学等に影響が生じている可能性がある。次の「(2) ヤングケアラーであることによる悩みや問題」においても、受験勉強の時間が取れないことや進学を考える時間がないこと、進学をあきらめることが上位に挙がっていることから、このことがうかがえる。（Q3ウ関係）

エ 世話をしている家族の有無により、就職に関して職種に違いが見受けられるかについては、次のとおりであった。

(ア)「正社員（常時雇用されている一般従業者）」について、世話をしている家族が「現在いる（いた）」人は28.5%、「現在も過去もない」人は24.3%で、「現在いる（いた）」人の割合が高くなっている。

(イ)「臨時雇用・パート・アルバイト」について、「現在いる(いた)」人は10.3%、「現在も過去もない」人は11.3%で、大きな差は見受けられなかった。  
(ウ)「無職」について、「現在いる(いた)」人は3.4%、「現在も過去もない」人は10.2%で、「現在いる(いた)」人の割合が低くなっている。(Q3ウ関係)

オ 世話を必要としている(いた)人は、「祖母」が31.3%で最も高く、次いで「父親」29.6%、「母親」27.7%で、令和4年度調査では、順位は異なるものの上位3つの属性は同じであった。

世代別では、高校生世代は「祖母」「祖父」が高く、大学生世代と社会人世代は「母親」「父親」が高くなっている。(Q4関係)

カ 世話を必要としている人の状況は、「高齢(65歳以上)」が35.8%で最も高く、次いで「要介護(介護が必要な状態)」23.7%、「身体障がい」17.6%となっている。世代別でも状況は同様で、大きな差は見受けられなかった。(Q5関係)

キ 世話の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が43.0%で最も高く、次いで「身体的な介護(入浴やトイレ、食事の世話など)」31.6%、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」30.4%で、令和4年度調査でも、最も高いのは「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」で同じであった。

世代別でも各世代とも、「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」が最も高い。(Q6関係)

ク 世話を誰と行っているかは、「母親」が40.8%で最も高く、次いで「父親」25.7%、「きょうだい」21.5%、「自分のみ」15.1%となっている。令和4年度調査では、「母親」が50.8%、「父親」35.4%、「自分のみ」26.2%、「きょうだい」20.0%で、負担がより重いとされる「自分のみ」の割合が7年度は減少している。「自分のみ」について、世代別では高校生世代15.1%、大学生世代13.3%、社会人世代18.3%で、社会人世代の割合が高くなっている。(Q7関係)

ケ 平日の世話の時間数は、「1時間以上3時間未満」が44.4%で最も高く、次いで「3時間以上5時間未満」26.0%、「1時間未満」14.2%となっている。

学校生活を含む子ども自身への影響が高まるとされる3時間以上の世話をしているのは、高校生世代で42.9%、大学生世代で38.7%、社会人世代で43.9%となっている。(Q8関係)

## (2) ヤングケアラーであることによる悩みや問題

世話をしている家族がいる(いた)人の悩みや問題では、「勉強時間のこと(宿題や勉強をする時間がとれない)」が30.7%で最も高く、次いで「受験勉強のこと(時間がとれない)」、「進学のこと(進路を変更、考える時間がない、進学をあきらめる)」、「生活リズムのこと(睡眠・休息が十分とれない)」などが続いてお

り、自身の成長や発達、自立に向けて必要な時間を確保できていない状況が見受けられた。

世代別でも各世代とも、同様に勉強時間のこと、受験勉強のこと、進学のこと、生活リズムのことなどが上位に挙がっており、ヤングケアラーの問題が教育を受けることや健康であることなど「子どもの人権」に関わる問題であることがうかがえる。(Q9関係)

### (3) 相談の相手

悩みや問題をどこに相談したかは、「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が37.7%で最も高く、次いで「家族」30.4%、「友人・知人」23.5%が続いている。

世代別でも同様に、「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」が最も高い(高校生世代35.6%、大学生世代39.3%、社会人世代37.8%)。

なお、「どこにも相談したことがない」は16.9%であった。

令和4年度調査では、「誰にも相談していない」が61.5%で最も高く、次いで「家族」23.1%、「SNS上の知り合い」3.1%で、今回の調査では、相談していない人の割合が大きく減少し、相談の相手として「SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人」の割合が高いことに特徴があった。このことから、SNS等を活用した相談窓口の整備について検討する必要がある。(Q10関係)

### (4) 相談しなかった、またはできなかった理由

相談しなかった、またはできなかった理由は、「相談しても状況が変わると思えない」が33.9%で最も高く、次いで「家族の事のため話しにくい」28.6%となっている。「相談しても状況が変わると思えない」は、令和4年度調査でも高い項目であった。相談することの重要性などについて一層の周知・啓発に努める必要がある。(Q11関係)

### (5) 周囲に助けてほしいこと、必要としている支援

世話をしている家族がいる(いた)人が、周囲に助けてほしいこと、必要としている支援は、「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてほしい」が31.0%で最も高く、次いで「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」25.1%、「職場での理解が得られるようにしてほしい」22.6%となっている。

また、世代別では各世代とも、「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてほしい」が最も高くなっており、相談窓口が十分に周知されていないことが考えられる。(Q12関係)

### (6) 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口

ア 知っている又は利用したことがある相談機関・窓口は、「知っている相談機関はない」が60.5%で最も高く、次いで「障がい福祉担当部局(障がい福祉サービ

スなど)」14.7%、「生活者相談支援センター（県社協）」12.5%で、相談機関・窓口についてあまり知られていない状況が見受けられ、今後も周知が必要である。

当該相談機関・窓口として、「各市町のヤングケアラー相談窓口」を挙げた人は、高校生世代 13.2%、大学生世代 11.6%、社会人世代 10.6%で、高校生世代が最も高く、学校等での周知が進んでいることが考えられる反面、社会人世代への周知が課題である。

イ 世話をしている家族がいる（いた）人では、「障がい福祉担当部局（障がい福祉サービスなど）」が 31.6%で最も高く、次いで「高齢・介護保険担当部局（介護保険サービスなど）」28.2%となっている。「知っている相談機関はない」は 23.7%と低く、全体（60.5%）との比較では大きな差が見受けられ、相談機関等の情報を求めていることがうかがえる。（Q13-1~3 関係）

#### （7）相談先について、相談しやすいと思う条件

ア 相談機関について相談しやすいと思う条件は、「24時間いつでも相談できること」が 45.0%で最も高く、次いで「匿名で相談できること」38.5%、「メールやチャット、SNSで相談できること」36.1%となっており、利用しやすい相談窓口の条件として考えられる。

イ 世話をする家族がいる（いた）人が相談しやすいと思う条件は、「メールやチャット、SNSで相談できること」が 36.0%で最も高く、次いで「周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される」28.5%となっている。

世代別で各世代とも、「メールやチャット、SNSで相談できること」が最も高いことから、世話をする家族がいる場合、時間を選ばず、いつでも相談できる SNS を利用した相談窓口を希望していることがうかがえる。（Q14-1~3 関係）

#### （8）認知度、効果のあると思う啓発活動

ア 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるかは、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 41.1%、「聞いたことはあるが、よく知らない」25.7%、「聞いたことはない」33.2%となっている。

令和4年度の調査では、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 48.3%で、今回の調査結果が下回っている。今後、認知度の向上に向けて、一層周知・啓発に努める必要がある。

特に、世話をしている家族がいる（いた）人で、世代別にみると、高校生世代は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 50.0%、大学生世代は 52.7%、社会人世代は 46.3%で、社会人世代が最も低いことから、広く県民等への周知・啓発に努める必要がある。

イ 啓発活動として効果があると思われる取組は、「テレビ、ラジオCM」が 42.3%で最も高く、次いで「SNSでの情報発信」が 33.8%、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が 29.6%となっている。

世話をしている家族がいる（いた）人が、啓発活動として効果があると思われる取組は、「学校でのチラシ配付、ポスター掲示」が 43.3%で最も高く、次いで

「SNSでの発信」35.8%となっており、身近に手に取れる情報を求めていることがうかがえる。

啓発活動として、これまで学校等へのチラシやポスターの送付、県民や関係職員等を対象にしたフォーラムや研修事業、ラジオ等での広報、みえ出前トークなどを行ってきたが、今回の調査では、効果的な取組としてSNSでの情報発信が挙げられた。(Q15-1~3、Q16-1~3 関係)

#### (9) ヤングケアラーに必要だと思う支援やサポート、要望

ヤングケアラーに必要と思う支援等について、世話をしている家族がいる(いた)人の主な意見は次のとおりである。

ヤングケアラーへの理解や支援内容、相談窓口、経済的支援などに関する意見が多くあったが、その中でも支援内容では、「自分たちが介護をしなくても良いように、支援サービスを徹底させること」や「気持ちを吐ける場所を作ってくれること」、相談窓口では、「気軽に相談できる窓口」や「24時間相談体制」であることなど、具体的な意見があった。(Q17-1~2 関係)

#### 【ヤングケアラーに必要だと思う支援等】

	意見内容
ヤングケアラーの理解、普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中の理解</li> <li>・ヤングケアラーに必要な知識と適切な対応を学んで、無理のない支援やサポートに取り組める環境づくりが大切</li> <li>・ネットでの情報発信 など</li> </ul>
相談窓口、相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に相談できる窓口</li> <li>・24時間相談体制</li> <li>・手厚い優遇措置の必要性と、抱えている悩み相談でアドバイスしてくれるサポート など</li> </ul>
教育・学習の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席日数(自分が理由でない)への配慮</li> </ul>
周囲の理解や寄り添い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、その存在に気付いてあげること。本当に辛い子は誰にも話さず抱え込んでいる</li> <li>・家族や職場の人たちの気遣いや制度など</li> </ul>
支援内容、支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが介護をしなくても良いように、支援サービスを徹底させること</li> <li>・気持ちを吐ける場所を作ってくれることが大事</li> <li>・将来の見通しがつかなくて苦しいから、支援や援助があることを教えて欲しい</li> <li>・心身のケア など</li> </ul>
経済的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭的支援 など</li> </ul>

- (10) 高校生世代と18歳以上である大学生世代、社会人世代の比較について  
 法改正に伴い、18歳以上のヤングケアラーも支援の対象であることが示されたことから、18歳未満の高校生と比較を行ったところ、その結果は次のとおり  
 (○…「特徴のない項目」、●…「特徴のある項目」とした)

ア 世話をしている家族の有無について、18歳以上と高校生世代に大きな差は見られなかった。

○世話をしている家族の有無

高校生世代	「現在いる」16.4%	「現在はいないが、過去にいた」8.8%
18歳以上	「現在いる」15.1%	「現在はいないが、過去にいた」8.1%

(Q3関係)

イ 世話を必要としている方について、18歳以上は母親、父親の割合が高く、高校生世代は祖母、祖父が高い。

●世話を必要としている方(上位4つ)

高校生世代	「祖母」40.5%	「祖父」32.5%	「父親」25.4%	「母親」15.9%
18歳以上	「母親」34.1%	「父親」31.9%	「祖母」26.3%	「祖父」22.8%

(Q4関係)

ウ 世話を必要としている方の状況について、18歳以上と高校生世代に大きな差は見られなかった。

○世話を必要としている方の状況(上位2つ)

高校生世代	「高齢」31.0%	「要介護」、「身体障がい」23.8%
18歳以上	「高齢」38.4%	「要介護」23.7%

(Q5関係)

エ 世話の内容について、家事の割合が最も高く、次に高いのは、18歳以上は身体的な介護、高校生世代はきょうだいの世話などであった。

●世話の内容(上位2つ)

高校生世代	「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」38.9%	「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」34.1%
18歳以上	「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」45.3%	「身体的な介護(入浴やトイレ、食事の世話など)」33.6%

(Q6関係)

オ 世話を誰と行っているかについて、母親の割合が最も高く、次に高いのは、18歳以上は父親、高校生世代は、きょうだいであった。

●世話を誰と行っているか（上位2つ）

高校生世代 「母親」 35.7% 「きょうだい」 26.2% ※「自分のみ」は 15.1%  
18歳以上 「母親」 43.5% 「父親」 27.6% ※「自分のみ」は 15.1%

（Q7関係）

カ 平日の世話の時間について、18歳以上と高校生世代に大きな差は見られなかった。

○平日の世話の時間（上位2つ）

高校生世代 「1時間以上3時間未満」 42.9% 「3時間以上5時間未満」 26.2%  
18歳以上 「1時間以上3時間未満」 45.3% 「3時間以上5時間未満」 25.9%

（Q8関係）

キ 世話をしている家族がいる（いた）人の悩みや問題について、上位2つは同じであるが、次の（ア）、（イ）、（ウ）は、18歳以上が高校生世代に比べて割合が高い。

●世話をしている家族がいる（いた）人の悩みや問題（上位2つ）

高校生世代 「勉強時間のこと（宿題や勉強をする時間が取れない）」 29.4%  
「受験勉強のこと（時間がとれない）」 26.2%  
18歳以上 「勉強時間のこと（宿題や勉強をする時間が取れない）」 31.5%  
「受験勉強のこと（時間がとれない）」 23.7%

（ア）「学校のこと（行きたくてもいけない・遅刻・早退・留年・休学）」

高校生世代 8.7% 18歳以上 17.7%

（イ）「自分の時間がない（友人との時間がとれない、部活動・サークル活動、習い事ができない）」 高校生世代 11.9% 18歳以上 18.1%

（ウ）「家族から世話を優先するよう求められる」

高校生世代 5.6% 18歳以上 11.6%

（Q9関係）

ク 悩みや問題をどこに相談したかについて、上位2つは同じであるが、「どこにも相談したことがない」の割合は、18歳以上が高校生世代に比べて高い。

●悩みや問題をどこに相談したか（上位2つ）

高校生世代 「SNSを通じて知り合った不特定多数の人」 35.6% 「家族」 26.3%  
18歳以上 「SNSを通じて知り合った不特定多数の人」 38.8% 「家族」 32.7%  
※「どこにも相談したことがない」 高校生世代 11.0% 18歳以上 20.1%

（Q10関係）

ケ 悩みや問題をどこにも相談しかなかった理由について、その割合が最も高いのは、18歳以上は「誰に相談するのがよいか分からない」、高校生世代は「相談しても状

況が変わると思えない」。また、次の(ア)、(イ)、(ウ)は18歳以上が高校生世代に比べて割合が高い。

●悩みや問題をどこにも相談しかなかった理由について（上位2つ）

高校生世代	「相談しても状況が変わると思えない」	46.2%
	「家族の事のため話しにくい」	30.8%
18歳以上	「誰に相談するのがよいか分からない」	32.6%
	「相談しても状況が変わると思えない」	30.2%

(ア)「誰に相談するのがよいか分からない」

高校生世代 0.0% 18歳以上 32.6%

(イ)「相談できる人が身近にいない」

高校生世代 15.4% 18歳以上 27.9%

(ウ)「家族のことを知られたくない」

高校生世代 7.7% 18歳以上 16.3%

(Q11 関係)

コ 周囲に助けてほしいこと、必要としている支援について、上位2つは同じであるが、(ア)、(イ)は18歳以上が高校生世代に比べて割合が高い。

●周囲に助けてほしいこと、必要としている支援（上位2つ）

高校生世代	「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください」	30.2%
	「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」	23.0%
18歳以上	「公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください」	31.5%
	「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」	26.3%

(ア)「家族の世話について相談にのってほしい」

高校生世代 19.0% 18歳以上 22.4%

(イ)「職場での理解が得られるようにしてほしい」

高校生世代 18.3% 18歳以上 25.0%

(Q12 関係)

## (11) 追加分析（クロス集計）

「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律」の一部施行について（ヤングケアラー関係）（こ支庁第 265 号令和 6 年 6 月 12 日付けこども家庭庁支援局長通知）において、支援の必要性、緊急性の高い者へ優先的に支援を展開していくことも重要とし、特に支援の必要性・緊急性が高いケースとして、

- ① 保護者に病気や障がいがあるなどして日常的なケアが必要な場合
- ② ケアの担い手が当該子どものみの場合
- ③ 保護者に対するケアを当該子ども・若者が長時間担っている場合

としている。

このことをもとに、特に優先的に支援を行う必要性の高いとされるヤングケアラーの特徴的な状況を把握するために、

- ア 世話を必要としている方による状況の違い（上記①の場合）
- イ 世話を誰と行っているかによる状況の違い（上記②の場合）
- ウ 平日の世話の時間による状況の違い（上記③の場合）

について、「世話の内容」「悩みや問題」「悩みや問題をどこに相談したか」「周囲に助けてほしいこと、必要としている支援」などの項目について、クロス集計を行った。

### ア 世話を必要としている方による状況の違い

#### (ア) 世話を必要としている方×世話の内容

世話の内容について、世話を必要としている人が母親である場合「家事」「きょうだいの世話」「身体的な介護」の割合が高く、父親である場合「きょうだいの世話」「家事」「身体的な介護」の割合が高い。

図表 45 世話を必要としている方×世話の内容（複数回答）

世話の内容 世話を必要と している方	調査数	家事	きょうだいの世話	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り	通訳	金銭管理	薬の管理	家計を助ける	その他
母親	99	51.5%	33.3%	33.3%	28.3%	26.3%	12.1%	13.1%	10.1%	8.1%	12.1%	14.1%	1.0%
父親	106	39.6%	45.3%	30.2%	22.6%	17.0%	7.5%	14.2%	7.5%	5.7%	7.5%	8.5%	1.9%
祖母	112	47.3%	31.3%	37.5%	33.9%	31.3%	15.2%	19.6%	8.9%	14.3%	17.0%	15.2%	1.8%
祖父	94	41.5%	26.6%	44.7%	38.3%	29.8%	21.3%	27.7%	11.7%	11.7%	19.1%	12.8%	1.1%
きょうだい	57	49.1%	35.1%	29.8%	26.3%	22.8%	22.8%	33.3%	10.5%	14.0%	14.0%	22.8%	1.8%
その他	5	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%

※保護者については様々な状況が想定されるが、今回は母親、父親を保護者として分析する（以下同じ）。

(イ) 世話を必要としている方×世話を誰と行っているか

世話を誰と行っているかについて、世話を必要としている人が母親である場合「父親」「きょうだい」「自分のみ」の割合が高く、父親である場合「母親」「きょうだい」「祖父」「自分のみ」の割合が高い。

図表 46 世話を必要としている方×世話を誰と行っているか（複数回答）

世話を誰と行っているか 世話を必要としている方	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス	その他
母親	99		35.4%	9.1%	11.1%	22.2%	11.1%	18.2%	9.1%	3.0%
父親	106	35.8%		15.1%	16.0%	22.6%	12.3%	16.0%	8.5%	1.9%
祖母	112	56.3%	25.9%		15.2%	21.4%	16.1%	14.3%	8.0%	1.8%
祖父	94	50.0%	33.0%	14.9%		23.4%	18.1%	18.1%	8.5%	4.3%
きょうだい	57	49.1%	24.6%	15.8%	10.5%		8.8%	19.3%	17.5%	1.8%
その他	5	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%

(ウ) 世話を必要としている方×平日の世話の時間

平日の世話の時間について、世話を必要としている人が母親である場合、父親である場合いずれも「1—3 H未満」「3—5 H未満」「1 H未満」の割合が高い。

図表 47 世話を必要としている方×平日の世話の時間

平日の世話の時間 世話を必要としている方	調査数	1 H未満	1—3 H未満	3—5 H未満	5—7 H未満	7 H以上
母親	99	17.2%	42.4%	25.3%	7.1%	8.1%
父親	106	15.1%	44.3%	26.4%	8.5%	5.7%
祖母	112	14.3%	48.2%	19.6%	8.9%	8.9%
祖父	94	13.8%	39.4%	26.6%	11.7%	8.5%
きょうだい	57	21.1%	36.8%	22.8%	7.0%	12.3%
その他	5	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%

(エ) 世話を必要としている方×悩みや問題

悩みや問題について、世話を必要としている人が母親である場合「勉強時間のこと」「受験勉強のこと」「学校のこと」「就職・転職・就業」の割合が高く、父親である場合「勉強時間のこと」「受験勉強のこと」「進学のこと」の割合が高い。

図表 48 世話を必要としている方×悩みや問題（複数回答）

悩みや問題 世話を必要と している方	調査数	学校のこと	勉強時間のこと	受験勉強のこと	進学のこと	就職・転職・就業	生活リズム	自分の時間	一人暮らし	経済的なこと	世話を優先されること	中々できない仕事に集中	自分が病気に	その他	特にな
母親	99	24.2%	35.4%	31.3%	23.2%	24.2%	23.2%	14.1%	16.2%	18.2%	8.1%	6.1%	10.1%	0.0%	7.1%
父親	106	20.8%	39.6%	30.2%	30.2%	17.9%	14.2%	11.3%	11.3%	12.3%	5.7%	6.6%	11.3%	0.0%	4.7%
祖母	112	11.6%	35.7%	27.7%	20.5%	26.8%	25.9%	22.3%	15.2%	26.8%	13.4%	13.4%	15.2%	0.0%	4.5%
祖父	94	18.1%	34.0%	24.5%	28.7%	31.9%	30.9%	21.3%	16.0%	19.1%	17.0%	14.9%	16.0%	1.1%	2.1%
きょうだい	57	24.6%	33.3%	28.1%	22.8%	15.8%	24.6%	22.8%	14.0%	17.5%	21.1%	14.0%	10.5%	0.0%	21.1%
その他	5	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	60.0%

(オ) 世話を必要としている方×悩みや問題をどこに相談したか

悩みや問題をどこに相談したかについて、世話を必要としている人が母親である場合、父親である場合いずれも「SNSを通じて知り合った人」「家族」「友人や知人」の割合が高い。

図表 49 世話を必要としている方×悩みや問題をどこに相談したか（複数回答）

悩みや問題 世話を必要と している方	調査数	友人や知人	家族	SNSを通じて知り合った人	学校や職場	相談機関（電話・面接）	相談機関（SNS）	その他	どこにも相談し
母親	99	31.3%	31.3%	39.4%	26.3%	17.2%	21.2%	1.0%	18.2%
父親	106	25.5%	37.7%	50.9%	20.8%	15.1%	17.0%	0.0%	7.5%
祖母	112	22.3%	28.6%	33.9%	24.1%	17.9%	13.4%	0.0%	20.5%
祖父	94	25.5%	31.9%	38.3%	29.8%	26.6%	19.1%	1.1%	16.0%
きょうだい	57	26.3%	29.8%	28.1%	21.1%	7.0%	19.3%	0.0%	12.3%
その他	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%

(カ) 世話を必要としている方×周囲に助けてほしいこと、必要としている支援

周囲に助けてほしいこと、必要としている支援について、世話を必要としている人が母親である場合「家族の世話について相談に乗ってほしい」「職場での理解が得られるようにしてほしい」「公的な支援が受けられる窓口を教えてください」「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」の割合が高く、父親である場合「公的な支援を受けられる窓口を教えてください」「家族の世話について相談に乗ってほしい」「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」の割合が高い。

図表 50 世話を必要としている方×周囲に助けてほしいこと、必要としている支援 (複数回答)

世話を必要としている方	調査数	周囲に助けてほしいこと、必要としている支援														
		自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族の世話について相談に乗ってほしい	職場での理解が得られるようにしてほしい	公的な支援が受けられる窓口を教えてください	家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい	自分が行っている世話をすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自分が行っている世話の一部を代わってくれたい	自由に使える時間がほしい	進路や就職などの将来の相談に乗ってほしい	転職やキャリア支援などの将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や学習のサポート	家庭への経済的(金銭面)な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特になし
母親	99	22.2%	28.3%	27.3%	27.3%	27.3%	14.1%	2.0%	11.1%	5.1%	6.1%	8.1%	12.1%	6.1%	1.0%	12.1%
父親	106	18.9%	28.3%	25.5%	34.0%	27.4%	14.2%	0.9%	11.3%	4.7%	5.7%	8.5%	7.5%	3.8%	0.0%	7.5%
祖母	112	15.2%	21.4%	25.0%	26.8%	29.5%	20.5%	1.8%	17.9%	8.9%	8.9%	10.7%	17.9%	8.9%	0.0%	12.5%
祖父	94	18.1%	27.7%	22.3%	37.2%	30.9%	25.5%	1.1%	17.0%	12.8%	10.6%	10.6%	14.9%	9.6%	0.0%	8.5%
きょうだい	57	24.6%	22.8%	17.5%	24.6%	22.8%	14.0%	3.5%	14.0%	12.3%	5.3%	17.5%	17.5%	14.0%	0.0%	22.8%
その他	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

## イ 世話を誰と行っているかによる状況の違い

### (ア) 世話を誰と行っているか×世話の内容

世話の内容について、世話を自分のみで行っている場合「家事」「外出の付き添い」「通院の付き添い」の割合が高い。

図表 51 世話を誰と行っているか×世話の内容（複数回答）

世話を誰と行っているか	世話の内容	調査数	家事	きょうだいの世話	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り	通訳	金銭管理	薬の管理	家計を助ける	その他
母親		146	65.1%	26.0%	43.8%	36.3%	28.8%	15.8%	28.1%	8.2%	12.3%	14.4%	11.0%	1.4%
父親		92	66.3%	33.7%	46.7%	35.9%	32.6%	16.3%	27.2%	5.4%	13.0%	15.2%	13.0%	0.0%
祖母		41	29.3%	58.5%	39.0%	26.8%	29.3%	17.1%	31.7%	14.6%	14.6%	14.6%	7.3%	0.0%
祖父		39	35.9%	46.2%	38.5%	28.2%	23.1%	7.7%	23.1%	12.8%	10.3%	12.8%	10.3%	0.0%
きょうだい		77	40.3%	40.3%	40.3%	33.8%	28.6%	18.2%	24.7%	6.5%	13.0%	23.4%	13.0%	0.0%
親戚の人		37	27.0%	48.6%	40.5%	48.6%	37.8%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	21.6%	16.2%	0.0%
自分のみ		54	51.9%	27.8%	27.8%	35.2%	31.5%	25.9%	24.1%	18.5%	18.5%	16.7%	16.7%	0.0%
福祉サービス		29	34.5%	20.7%	44.8%	34.5%	41.4%	27.6%	24.1%	10.3%	20.7%	27.6%	44.8%	0.0%
その他		8	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	37.5%

### (イ) 世話を誰と行っているか×世話を必要としている方

世話を必要としている方について、世話を自分のみで行っている場合「母親」「父親」「祖父」の割合が高い。

図表 52 世話を誰と行っているか×世話を必要としている方（複数回答）

世話を誰と行っているか	世話を必要としている方	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
母親		146		26.0%	43.2%	32.2%	19.2%	1.4%
父親		92	38.0%		31.5%	33.7%	15.2%	1.1%
祖母		41	22.0%	39.0%		34.1%	22.0%	0.0%
祖父		39	28.2%	43.6%	43.6%		15.4%	0.0%
きょうだい		77	28.6%	31.2%	31.2%	28.6%	14.3%	0.0%
親戚の人		37	29.7%	35.1%	48.6%	45.9%	13.5%	2.7%
自分のみ		54	33.3%	31.5%	29.6%	31.5%	20.4%	3.7%
福祉サービス		29	31.0%	31.0%	31.0%	27.6%	34.5%	0.0%
その他		8	37.5%	25.0%	25.0%	50.0%	12.5%	12.5%

(ウ) 世話を誰と行っているか×平日の世話の時間

平日の時間について、世話を自分のみで行っている場合「1—3H未満」「3H—5H未満」「1H未満」の割合が高い。

図表 53 世話を誰と行っているか×平日の世話の時間

世話を誰と行っているか	平日の世話の時間	調査数	平日の世話の時間				
			1H未満	1H—3H	3H—5H	5H—7H	7H以上
母親		146	17.1%	55.5%	18.5%	4.8%	4.1%
父親		92	18.5%	51.1%	21.7%	5.4%	3.3%
祖母		41	19.5%	43.9%	22.0%	7.3%	7.3%
祖父		39	10.3%	51.3%	20.5%	15.4%	2.6%
きょうだい		77	11.7%	35.1%	37.7%	9.1%	6.5%
親戚の人		37	5.4%	13.5%	35.1%	29.7%	16.2%
自分のみ		54	18.5%	33.3%	25.9%	7.4%	14.8%
福祉サービス		29	27.6%	24.1%	17.2%	13.8%	17.2%
その他		8	25.0%	12.5%	37.5%	0.0%	25.0%

(エ) 世話を誰と行っているか×悩みや問題

悩みや問題について、世話を自分のみで行っている場合「就職・転職・就業」「生活リズム」「勉強時間のこと」の割合が高い。

図表 54 世話を誰と行っているか×悩みや問題（複数回答）

世話を誰と行っているか	悩みや問題	調査数	悩みや問題													
			学校のこと	と勉強時間のこ	と受験勉強のこ	進学のこと	就職・転職・就業	生活リズム	自分の時間	一人暮らし	経済的なこと	世話を優先するよう求められる	集中できない	勉強や仕事に	なつたときに	自分が病気に
母親		146	26.0%	39.0%	26.7%	23.3%	24.0%	28.8%	21.9%	19.2%	27.4%	17.1%	12.3%	13.0%	0.7%	8.2%
父親		92	25.0%	42.4%	33.7%	26.1%	33.7%	31.5%	22.8%	19.6%	27.2%	12.0%	9.8%	7.6%	1.1%	7.6%
祖母		41	14.6%	43.9%	39.0%	26.8%	17.1%	24.4%	12.2%	14.6%	17.1%	9.8%	12.2%	14.6%	0.0%	4.9%
祖父		39	15.4%	35.9%	46.2%	33.3%	20.5%	23.1%	10.3%	12.8%	7.7%	12.8%	7.7%	10.3%	0.0%	2.6%
きょうだい		77	13.0%	33.8%	33.8%	32.5%	22.1%	23.4%	23.4%	13.0%	26.0%	14.3%	11.7%	14.3%	0.0%	5.2%
親戚の人		37	18.9%	43.2%	32.4%	54.1%	32.4%	21.6%	21.6%	16.2%	16.2%	10.8%	16.2%	18.9%	0.0%	0.0%
自分のみ		54	18.5%	27.8%	18.5%	22.2%	29.6%	29.6%	22.2%	16.7%	16.7%	7.4%	14.8%	16.7%	0.0%	11.1%
福祉サービス		29	17.2%	27.6%	20.7%	24.1%	37.9%	27.6%	27.6%	13.8%	31.0%	24.1%	24.1%	44.8%	0.0%	13.8%
その他		8	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%

(オ) 世話を誰と行っているか×悩みや問題をどこに相談したか

悩みや問題をどこに相談したかについて、世話を自分のみで行っている場合「SNSを通じて知り合った人」「どこにも相談したことがない」「家族」「相談機関（電話・面接）の割合が高い。

図表 55 世話を誰と行っているか×悩みや問題をどこに相談したか（複数回答）

世話を誰と行っているか 悩みや問題をどこに相談したか	調査数	友人や知人	家族	SNSを通じて知り合った人	学校や職場	相談機関（電話・面接）	相談機関（SNS）	その他	どこにも相談しない
母親	146	36.3%	39.0%	37.0%	23.3%	15.8%	17.8%	0.7%	15.1%
父親	92	37.0%	42.4%	37.0%	27.2%	22.8%	22.8%	0.0%	17.4%
祖母	41	22.0%	39.0%	41.5%	34.1%	17.1%	19.5%	0.0%	9.8%
祖父	39	17.9%	25.6%	56.4%	30.8%	25.6%	20.5%	0.0%	12.8%
きょうだい	77	23.4%	27.3%	46.8%	28.6%	18.2%	14.3%	1.3%	13.0%
親戚の人	37	18.9%	29.7%	43.2%	40.5%	18.9%	24.3%	0.0%	13.5%
自分のみ	54	20.4%	24.1%	38.9%	18.5%	24.1%	16.7%	0.0%	25.9%
福祉サービス	29	27.6%	24.1%	24.1%	34.5%	24.1%	37.9%	0.0%	17.2%
その他	8	25.0%	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%

(カ) 世話を誰と行っているか×周囲に助けてほしいこと、必要としている支援

周囲に助けてほしいこと、必要としている支援について、世話を自分のみで行っている場合「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」「公的な支援が受けられる窓口を教えてください」「自分が行っている世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」の割合が高い。

図表 56 世話を誰と行っているか×周囲に助けてほしいこと、必要としている支援 (複数回答)

世話を誰と行っているか	調査数	周囲に助けてほしいこと、必要としている支援														
		自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族の世話について相談に乗ってほしい	職場での理解が得られるようにしてほしい	公的な支援が受けられる窓口を教えてください	家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい	自分が行っている世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っている世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職などの将来の相談に乗ってほしい	転職やキャリア支援などの将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や学習のサポート	家庭への経済的(金銭面)な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特になし
母親	146	29.5%	32.9%	26.7%	30.8%	28.8%	21.2%	0.7%	16.4%	11.0%	5.5%	11.0%	15.8%	11.0%	0.0%	12.3%
父親	92	30.4%	41.3%	29.3%	30.4%	29.3%	21.7%	0.0%	20.7%	8.7%	7.6%	10.9%	17.4%	8.7%	1.1%	12.0%
祖母	41	17.1%	24.4%	29.3%	31.7%	36.6%	19.5%	2.4%	9.8%	9.8%	12.2%	12.2%	14.6%	12.2%	0.0%	7.3%
祖父	39	10.3%	23.1%	33.3%	43.6%	23.1%	20.5%	0.0%	7.7%	12.8%	12.8%	12.8%	15.4%	7.7%	0.0%	7.7%
きょうだい	77	16.9%	26.0%	26.0%	40.3%	33.8%	22.1%	0.0%	22.1%	9.1%	9.1%	13.0%	20.8%	10.4%	0.0%	7.8%
親戚の人	37	16.2%	29.7%	16.2%	45.9%	35.1%	21.6%	0.0%	18.9%	21.6%	16.2%	16.2%	21.6%	16.2%	0.0%	5.4%
自分のみ	54	11.1%	14.8%	22.2%	27.8%	33.3%	24.1%	3.7%	16.7%	5.6%	9.3%	7.4%	14.8%	3.7%	0.0%	24.1%
福祉サービス	29	10.3%	31.0%	24.1%	27.6%	34.5%	31.0%	0.0%	27.6%	20.7%	17.2%	17.2%	27.6%	24.1%	0.0%	24.1%
その他	8	12.5%	12.5%	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	37.5%

## ウ 平日の世話の時間による状況の違い

### (ア) 平日の世話の時間×世話の内容

世話の内容について、3時間以上の場合「家事」「きょうだいの世話」「外出の付き添い」の割合が高い。

図表 57 平日の世話の時間×世話の内容（複数回答）

世話の内容 平日の世話 の時間	調査数	家事	きょうだいの世話	身体的な介護	外出の付き添い	通院の付き添い	感情面のサポート	見守り	通訳	金銭管理	薬の管理	家計を助ける	その他
1H未満	51	39.2%	19.6%	27.5%	23.5%	21.6%	9.8%	21.6%	5.9%	7.8%	7.8%	15.7%	5.9%
1-3H	159	47.2%	30.2%	31.4%	22.6%	20.1%	13.2%	19.5%	5.0%	5.0%	6.9%	8.2%	0.0%
3-5H	93	46.2%	30.1%	32.3%	35.5%	22.6%	10.8%	17.2%	5.4%	5.4%	10.8%	4.3%	2.2%
5-7H	29	20.7%	41.4%	31.0%	34.5%	27.6%	13.8%	13.8%	13.8%	13.8%	20.7%	20.7%	0.0%
7H以上	26	38.5%	42.3%	38.5%	30.8%	34.6%	34.6%	34.6%	15.4%	26.9%	30.8%	34.6%	0.0%
3H以上		39.9%	34.5%	33.1%	34.5%	25.7%	15.5%	19.6%	8.8%	10.8%	16.2%	12.8%	1.4%

### (イ) 平日の世話の時間×世話を必要としている方

世話を必要としている方について、3時間以上の場合「祖父」「父親」「祖母」の割合が高い。

図表 58 平日の世話の時間×世話を必要としている方（複数回答）

世話を必要と している方 平日の世話 の時間	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1H未満	51	33.3%	31.4%	31.4%	25.5%	23.5%	0.0%
1-3H	159	26.4%	29.6%	34.0%	23.3%	13.2%	1.3%
3-5H	93	26.9%	30.1%	23.7%	26.9%	14.0%	1.1%
5-7H	29	24.1%	31.0%	34.5%	37.9%	13.8%	0.0%
7H以上	26	30.8%	23.1%	38.5%	30.8%	26.9%	7.7%
3H以上		27.0%	29.1%	28.4%	29.7%	16.2%	2.0%

(ウ) 平日の世話の時間×世話を誰と行っているか

世話を誰と行っているかについて、3時間以上の場合「きょうだい」「母親」「親戚の人」の割合が高い。

図表 59 平日の世話の時間×世話を誰と行っているか（複数回答）

平日の世話の時間	世話を誰と行っているか	調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス	その他
1H未満		51	49.0%	33.3%	15.7%	7.8%	17.6%	3.9%	19.6%	15.7%	3.9%
1-3H		159	50.9%	29.6%	11.3%	12.6%	17.0%	3.1%	11.3%	4.4%	0.6%
3-5H		93	29.0%	21.5%	9.7%	8.6%	31.2%	14.0%	15.1%	5.4%	3.2%
5-7H		29	24.1%	17.2%	10.3%	20.7%	24.1%	37.9%	13.8%	13.8%	0.0%
7H以上		26	23.1%	11.5%	11.5%	3.8%	19.2%	23.1%	30.8%	19.2%	7.7%
3H以上			27.0%	18.9%	10.1%	10.1%	27.7%	20.3%	17.6%	9.5%	3.4%

(エ) 平日の世話の時間×悩みや問題

悩みや問題について、3時間以上の場合「受験勉強のこと」「進学のこと」「勉強時間のこと」の割合が高い。

図表 60 平日の世話の時間×悩みや問題（複数回答）

平日の世話の時間	悩みや問題	調査数	学校のこと	勉強時間のこと	受験勉強のこと	進学のこと	就職・転職・就	生活リズム	自分の時間	一人暮らし	経済的なこと	世話を優先する	中できない仕事に集	勉強や仕事に集	なつた病気に	自分	その他	特にな
1H未満		51	15.7%	25.5%	13.7%	17.6%	13.7%	13.7%	7.8%	9.8%	29.4%	9.8%	7.8%	15.7%	0.0%	17.6%		
1-3H		159	11.9%	34.6%	21.4%	16.4%	20.8%	26.4%	15.7%	11.3%	18.2%	10.7%	6.3%	7.5%	0.6%	4.4%		
3-5H		93	18.3%	26.9%	33.3%	31.2%	18.3%	17.2%	18.3%	10.8%	9.7%	4.3%	7.5%	8.6%	0.0%	4.3%		
5-7H		29	10.3%	27.6%	34.5%	27.6%	27.6%	24.1%	13.8%	13.8%	17.2%	10.3%	17.2%	17.2%	0.0%	0.0%		
7H以上		26	19.2%	34.6%	23.1%	26.9%	26.9%	26.9%	26.9%	19.2%	23.1%	19.2%	15.4%	23.1%	0.0%	23.1%		
3H以上			16.9%	28.4%	31.8%	29.7%	21.6%	20.3%	18.9%	12.8%	13.5%	8.1%	10.8%	12.8%	0.0%	6.8%		

(オ) 平日の世話の時間×悩みや問題をどこに相談したか

悩みや問題をどこに相談したかについて、3時間以上の場合「SNSを通じて知り合った人」「学校や職場」「家族」の割合が高い。

図表 61 平日の世話の時間×悩みや問題をどこに相談したか（複数回答）

平日の世話の時間	悩みや問題をどこに相談したか	調査数	友人や知人	家族	SNSを通じて知り合った人	学校や職場	相談機関（電話・面接）	相談機関（SNS）	その他	たどこにも相談しない
1H未満	51	23.5%	27.5%	13.7%	17.6%	9.8%	5.9%	0.0%	21.6%	
1-3H	159	24.5%	32.7%	36.5%	15.1%	10.1%	8.2%	0.0%	16.4%	
3-5H	93	19.4%	25.8%	40.9%	31.2%	14.0%	18.3%	1.1%	11.8%	
5-7H	29	13.8%	20.7%	48.3%	31.0%	24.1%	37.9%	0.0%	6.9%	
7H以上	26	19.2%	19.2%	30.8%	19.2%	30.8%	15.4%	3.8%	23.1%	
3H以上		18.2%	23.6%	40.5%	29.1%	18.9%	21.6%	1.4%	12.8%	

(カ) 平日の世話の時間×周囲に助けてほしいこと、必要としている支援

周囲に助けてほしいこと、必要としている支援について、3時間以上の場合「公的な支援を受けられる窓口を教えてください」「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」「家族の世話について相談に乗ってほしい」の割合が高い。

図表 62 平日の世話の時間×周囲に助けてほしいこと、必要としている支援（複数回答）

平日の世話の時間	周囲に助けてほしいこと、必要としている支援	調査数	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族の世話について相談に乗ってほしい	職場での理解が得られるようにしてほしい	公的な支援を受けられる窓口を教えてください	家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい	自分が行っている世話のすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自分が行っている世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職などの将来の相談に乗ってほしい	転職やキャリア支援などの将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や学習のサポート	家庭への経済的（金銭面）な支援	学費への支援・奨学金等	その他	特になし
1H未満	51	19.6%	21.6%	15.7%	15.7%	17.6%	5.9%	0.0%	17.6%	3.9%	5.9%	5.9%	11.8%	9.8%	0.0%	33.3%	
1-3H	159	15.7%	20.1%	27.7%	29.6%	28.3%	16.4%	1.3%	10.7%	6.9%	3.8%	5.7%	9.4%	3.1%	0.6%	8.2%	
3-5H	93	16.1%	23.7%	23.7%	37.6%	19.4%	15.1%	0.0%	11.8%	3.2%	5.4%	10.8%	9.7%	3.2%	0.0%	8.6%	
5-7H	29	10.3%	20.7%	17.2%	48.3%	31.0%	27.6%	3.4%	3.4%	6.9%	6.9%	6.9%	17.2%	10.3%	0.0%	10.3%	
7H以上	26	15.4%	19.2%	7.7%	26.9%	34.6%	19.2%	3.8%	19.2%	11.5%	7.7%	11.5%	23.1%	11.5%	0.0%	30.8%	
3H以上		14.9%	22.3%	19.6%	37.8%	24.3%	18.2%	1.4%	11.5%	5.4%	6.1%	10.1%	13.5%	6.1%	0.0%	12.8%	

# 第3章 市町ヒアリング調査の結果

## 1 調査結果の概要

### (1) ヤングケアラーの相談窓口について

ア 18歳未満 29市町全てに相談窓口が設置されている。

イ 18歳以上 16市町に相談窓口が設置されている。窓口が未定の13市町は、担当課が明確に決まっていないものの、相談があった課(所)で内容を聴き取り、その内容に応じて担当課に案内するとしていた。

### (2) ヤングケアラーの把握について

ヤングケアラーに係る相談の受付実績があり、現に支援を行っていた市町は、18歳未満の子どもに対しては24市町、18歳以上の若者に対しては4市町である。調査期間中に18歳未満の子どもに対する相談受付の実績がなかった5市町においても、市町教育委員会と定期的に会議を開いたり、学校を訪問してヤングケアラーと思われる子どもの情報収集等に努めていた。

ア 18歳未満 相談受付 145件 個別支援 193件

イ 18歳以上 相談受付 6件 個別支援 6件

(令和6年4月1日から令和7年6月1日までの合計)

### (3) 実態調査について

令和6年度に実施した市町は7市町、7年度の実施(予定)市町は9市町で、その方法は、小学校高学年や中学生への記名式等のオンラインによるアンケート調査、教員に対する紙媒体等による調査などである。

### (4) ヤングケアラー支援に向けた取組状況

ヤングケアラーへの支援に向けて、各市町は、次のとおり各種事業等に取り組んでいる。

#### ア 各種支援事業の実施

- ・家事支援や育児・養育支援などを行う子育て世帯訪問支援事業、養育支援訪問事業及び食事支援や学習支援などを行う支援対象児童等見守り強化事業など

#### イ 面談、見守りの継続などの支援

- ・子どもや保護者との面談(希望する場合や支援を必要とする場合の訪問)
- ・支援につながっていない場合の見守り(子どもや家庭の状況変化への対応、支援の必要性の判断) など

#### ウ 学校等関係機関への周知、啓発

- ・ポスター、リーフレットの配付、掲示
- ・支援ハンドブックの配付、研修の実施 など

#### エ 学校訪問、関係機関との会議などによる情報共有・連携

- ・幼稚園、保育園、小学校、中学校へ年度当初や学期ごとなど定期的に訪問し、情報共有・連携の依頼
- ・教育委員会との定例的な会議
- ・小学校との連携会議の実施 など

オ 把握のための実態調査

- ・アンケート調査後の子ども本人や教職員等への聴取調査、子どもの置かれている家庭、家族の様子・状況の確認などを通じたヤングケアラー支援の必要性の検討・協議、支援の実施 など

(5) 今後必要と考える支援内容

市町が、今後必要と考える主な支援内容は次のとおりである。

ア 早期発見に向けた一層の取組

- ・早期発見につながる事業の実施、啓発
- ・子ども自身がヤングケアラーを知る機会を増やす（学校での研修やリーフレットの配付など）

イ オンラインなど当事者が気軽に話せる場所の提供、相談できる環境づくり

- ・SNS相談窓口、ピアサポート等の場の設置、身近な居場所

ウ 18歳以上の若者への相談支援体制

- ・情報収集、相談体制、支援体制の整備

エ サービス活用によるヤングケアラーの負担軽減

- ・家庭支援事業による家事・子育て（育児）支援
- ・障がいや介護の福祉サービスを担う事業所等との連携 など

(6) SNS相談について

SNS相談などオンライン等を利用した相談窓口について、各市町の考えを尋ねたところ、主な意見は次のとおりである。

ア 子どもにとっては発信しやすい方法である。

- ・電話や来所相談よりハードルは低くなる
- ・24時間いつでも、どこにいても相談できることはよい
- ・遠方に出向くことが難しい子もいるため、必要
- ・言葉として表出しにくい子どももいるため、文章で相談できるのはよい
- ・身近な機関や人に相談したくない人もいるため、そのような人に有効
- ・高校生等当事者は、周りの大人に相談しようとしにくい現実があるので、SNSは重要

イ 市町単位で実施することは難しいため、虐待相談同様に県で一つ窓口があるとよい。

ウ 市として子どもたち向けにオンライン相談窓口を設けているので、新たな窓口の必要性は感じない（いじめ対策の一環で、なんでも相談してよい窓口が既にある）。

## 2 市町ヒアリング調査結果のまとめ・考察

### (1) ヤングケアラーの把握について

ア 令和6年度の18歳未満の子どもに対する個別支援件数は193件、4年度は160件で、やや増加がみられた。市町は、ヤングケアラーへの支援に向けて、①各種支援事業の実施 ②子どもや保護者との面談、見守りの継続 ③学校等関係機関への周知、啓発 ④学校訪問、関係機関との会議などによる情報共有・連携 ⑤把握のための実態調査などに取り組んでいる。

ヤングケアラーの把握に向けて、実態調査や学校等関係機関との情報共有・連携などの取組をさらに進めていくことが求められる。

イ 令和4年度の県の実態調査では、ヤングケアラーの発見者の多くが学校であった。学校はヤングケアラーの早期発見において重要な関係機関であることから、学校との情報共有・連携の強化に向けて、ヤングケアラーの早期把握・支援のためのアセスメントシートの活用について働きかけるとともに、その使用について支援していく。

### (2) 18歳以上のヤングケアラーの相談窓口について

担当課が未定の市町も相談があった課(所)で内容を聴き取り、その内容に応じた担当課に案内するとしていた。18歳以上、未満の区分に関わらず、ヤングケアラーから相談を受け付ける体制は整備されてきていると思われるが、18歳以上のヤングケアラーに係る相談件数、個別支援件数は少ない状況である。

### (3) 実態調査について

令和7年度の実施(予定)市町は9市町で、6年度と比べ増加しているものの、県内市町の3割程度となっている。子ども・若者が自らSOSを発信できるような、また、ヤングケアラー自身に気づきを与えるようなアンケートによる調査はヤングケアラーの把握に有効とされている。

実態把握を推し進めるため、新たにアンケート等による調査を実施しようとする市町に対して、例えば、既に実施している市町の調査内容(対象学年やアンケート内容など)やノウハウなどの情報、助言その他必要な情報の共有が図られるような仕組みについて検討を進める。

### (4) 今後必要と考える支援内容について

市町が、今後必要と考える主な支援内容は、①早期発見に向けた取組 ②オンラインなど当事者が気軽に話せる場所、相談できる環境づくり ③18歳以上の若者への相談支援体制 ④サービス活用によるヤングケアラー本人の負担軽減であった。

令和6年度の法改正によるヤングケアラー支援の強化に伴い、18歳以上の若者も支援対象として明確にされたことから、当該若者への相談支援体制の整備が求められている。

また、家事支援などのサービス活用による負担軽減のほか、子ども・若者の精神的サポート、進学・就職などの進路相談など個々の状況に応じた支援の必要性が問われている。

(5) オンライン等を利用した相談窓口の整備について

市町はSNS相談などオンライン等を利用した相談窓口について、子ども・若者にとってハードルが低く、発信（相談）しやすい方法であるとして、概ねその必要性があるとしていた。また、各市町での設置は困難であるとして、県で一つの窓口の設置を望む意見もあった。

18歳以上の若者のヤングケアラーも含めた相談支援体制の整備が求められており、その整備にあたっては、相談窓口としてオンライン等の活用についても配慮する必要がある。

## 第4章 当事者ヒアリング調査の結果

### 1 調査結果の概要

#### (1) ヒアリング対象者の年代及びケアの対象者

	年 代	ケアの対象者
Aさん	30代	祖母：認知症、母親：精神疾患
Bさん	40代	母親：精神疾患
Cさん	20代	父親：精神疾患（診断なし）・認知症
Dさん	30代	父親：精神疾患、母親：精神疾患
Eさん	50代	父親：がん
Fさん	30代	母親：精神疾患
Gさん	40代	母親：精神疾患・視覚障害、 きょうだい：幼い

## (2) ケアの状況について

「ケアの状況」について、以下の4つに分類される。

- ア 障がいや病気のある家族の身体・医療・生活面での直接的なケア
- ・排泄介助（ストマ管理）、見守り
  - ・服薬管理、通院の付き添い、救急車の同乗、入院時の泊まりの付き添い
  - ・疾病により自宅の鍵の管理ができないため、外出・帰宅時の対応や見守り
  - ・同じ話や行動を繰り返すため、その都度対応する
  - ・外出や買い物の同行、支援
- イ 障がいや病気のある家族への感情面のケア
- ・精神疾患の症状に対する対応、感情のケア（イライラや愚痴を聞くなど、背中を撫でて落ち着かせる、精神状態が高揚した時、なだめるために夜遅くまで話を聞く、泣いたり怒ったり落ち込んだり、ものを投げるなどへの対応、怒らせないように振舞った）
  - ・自傷行為等がみられたため環境整備や見守り、事後の対応や救急、警察などの対応
  - ・医師の診察を受けるよう説得する
- ウ 障がいや病気のある家族に代わって行うケア
- ・家事（料理、調理の下ごしらえ、掃除、洗濯、ゴミ出しなど）
  - ・幼いきょうだいのケア（保育園への送迎や参観なども含む）
  - ・家計補助
- エ 障がいや病気のある家族が行うべき社会的手続きなどに係るケア
- ・役所（医療費の申請や制度利用など）の手続き
  - ・親の就労継続のための実務的サポート（広告作成、電話対応、トラブル時のフォローなど）
  - ・親の職場トラブル発生時の謝罪代行
  - ・学校のプリントなども（親に）話せないため自分で書いた
  - ・自治会のこと
- ※複数のケアが含まれる項目については、主なカテゴリー（ア～エ）に振り分けている。

## (3) ケアをすることに対する思い

- ・この先どうなるのだからと不安に思っていた。息を殺して生きていくのが辛かった母の病気や家のことをどうにかしたいと思っていた。現在は、当時よくがんばったなと思う
- ・小学校低学年のころから、わめいていたので「怖かった」というのが率直なところ病気のことをわがまま・意思がないと思っていた。存在を隠したかった
- ・当たり前のこと。普通に生活していた。母のことは大切だったのでやることはやっていたし、ケアは嫌ではなかった。家に来る訪問看護やヘルパーが嫌いだった。医者も同様。親族も嫌いだった。自分たちきょうだいが頑張っていることに対しての言葉はなかった。
- ・母が倒れたら、自分が祖母をみないといけないと思っていた
- ・逃げる選択肢なく、結果として役割を果たしていた

#### (4) 体調面で気になること

- ・当時は体調面で気になることはなかった。現在はケアをしていないが、それで終わりではなく、自分や妹もいつか発症するのではないかと怯えている。ケアから離れた後のしんどさもある
- ・中学生の頃、隣の部屋で母の独語あり、夜眠れず部屋を移動した
- ・よく救急車や警察のお世話になったので、サイレンの音や灯が怖かった。一度目の就職後、眠れなくなりメンタルクリニックに通院。自分の人生がどうなってしまうのかという不安。離職後特に強くなった
- ・イライラする、ストレスがたまる
- ・特にない

#### (5) 生活への影響

「生活への影響」について、以下の4つに分類される。

##### ア 経済的な影響

- ・経済的なことで困った。入院費について親族や母の知人にお金を借りていた生活必需品以外のもので、学校で使うものなどを買うことが分からなかったし、できなかった
- ・欲しいものを買えなかった
- ・朝ごはんなし、昼は給食、夜は何かしら食べることはできた
- ・家族で旅行に出かけることはなかった、普通の家庭で育った友達に比べて、何か足りないと思う
- ・①家族のケア、②貧困【治療費がかかるため】、③虐待があった。家計が苦しく塾に通えなかった。

##### イ 家庭内生活での影響（心理的な圧迫）

- ・平日家に帰ってから、翌日学校に行くまでひっそりと過ごしていた
- ・精神的に不安定な父の様子を伺いながら暮らしていた
- ・母の調子に合わせて手伝いをする、自分自身の声掛けや対応を工夫するなどして生活をしていた
- ・家では休まらないので、アルバイトに行ったりしていた
- ・家にいる時間を少なくするため、部活や生徒会で学校にいる時間を長くした
- ・見守り対応が必要なため、外出の時間が制限される
- ・母親は父親の治療費等を賄う必要から仕事はフルタイムで、専念せざるを得なかった。父親は入退院を繰り返し、その都度母親が入院等に付き添っていた。そのため、小学生くらいから家事や食事の準備など毎日のようにやっていた

##### ウ 教育・進路への影響

- ・高校進学の際、就職のことと精神科の病気について理解したいと考え学科を選択した
- ・母と共に暮らしていた祖母が認知症になり、30代で家に帰ってきた
- ・自宅では母の独語が気になり勉強が難しく、図書館を利用したり、休日は出かけたりしていた
- ・学校でも母の独語で嫌な思いをしたが、やめてほしいと言えなかった
- ・母の負担を軽減するため実家へ戻ってきた

- ・一度就職したが、祖母が体調を崩したこともあり、自分が仕事を辞めてケアすることになった。現在、一緒にケアを担っている他のきょうだいに子どもがいるが、きょうだい自身の生活や子どもたちにも不自由な思いをさせていないか、かわいそうなことをしているのではないかと思うこともある

## エ 精神的影響

- ・自分の意見を言って承認された経験がなく、大人になってからもずっと自分の意見を話すことに尻込みをし、いつまでたっても何かが足りないという不安が消えない
- ・自分が、家族旅行や家計が苦しく塾に通えないなど周囲との体験格差があったことから、現在は、子どもたちに体験を提供する側のボランティアをしている

## (6) 悩みや困りごと

「悩みや困りごと」について、以下の4つに分類される。

### ア 情報・相談相手の欠如

- ・母の病気のことが分からなかったので、母への対応や家の中のことをどうしてよいか分からなかった
- ・誰に何を聞いてよいか分からなかった。一人で悩んでいた
- ・進路の相談ができなかった
- ・就職試験の際の服装やその購入先、就職先の選択、婚約時の結納などについて聞く人がおらず相談できる大人がいなかった

### イ 将来への不安と自己不信

- ・自分はどうなるのだろう、と考えると眠れなくなった
- ・自分もいつ発症するか分からないという不安がある
- ・何が正しいか分からない。自分の考えや意見に不安があり自信が持てない
- ・辛いとは思っていなかった

### ウ 社会的・経済的な困難さ

- ・入社時や家を借りる時の身元保証人に困った
- ・病院に行くことを拒否していたが、病院からは「本人を病院まで連れてくる必要がある」と説明されるばかりで、手の打ちようがなかった
- ・経済的な悩み（入院費や治療費がかかるため、生活、学費のため）
- ・虐待の問題

### エ 対人関係

- ・対人関係に不安感を持ち、アルバイトで多忙であったこともあり、友人関係が疎遠になった
- ・人とコミュニケーションがきちんと取れているか不安になる

## (7) 自分がヤングケアラーだと気付いたきっかけ

- ・ボランティアをしていて子ども食堂でヤングケアラーの講演に参加したことから
- ・高校生くらいでまわりと違うということに気づいた。働き出してから分かった
- ・看病をしていないので、ヤングケアラーに該当しないと思っていた
- ・はっきりとは分からない

(8) 相談について

ケアしていた当時、誰かに相談した（ケアのことを話した）経験

- ・当たり前のことだったので、ケア自体について相談しなかったが、次にどうしていいか、というような話は自然と祖母、きょうだいとしていた
- ・精神疾患についての知識もなく、父や母のトラブルをどこに相談すればいいかも分からなかった。
- ・友達に相談もできなかった
- ・誰に、どこに相談したらよいか分からなかった

(9) 相談について

ケアしていた当時、誰かに相談した（ケアのことを話した）経験がある場合は、相談相手、その内容

- ・地域包括支援センター（祖母のケアについて）
- ・学校の先生（進路相談）
- ・大学のカウンセラー（病気の遺伝のことや両親の状況など）
- ・市役所 高齢者担当課（相談窓口について）
- ・友人（自分の離職中に周囲の目も気になっていて打ち明けた。お互いに話せてよかった）
- ・保健所、警察、役所、社協（面倒を見られないことなど）

(10) 相談について

どういう人・方法（場所）が相談しやすいと感じるか

- ・子どもをひとりの人として関わってくれる人なら誰でもよい。学校には言いにくかった
- ・家に来て様子を見て分かってくれている人がいるとよい
- ・訪問看護師
- ・精神疾患の人や家族が集まり情報交換ができるカフェがあるとよい
- ・メールで相談できたのは便利だった
- ・相談する人がどんな人か分からないので生成AIがよい
- ・フランクな環境で、人がいないところで1対1がよい。雰囲気づくり大切。方法としてSNSは入りやすいと思う。小さいカードで二次元コードなど記載、いろいろなところにおいて手に取ることができるようにする（子どもが来るところ、コンビニやゲームセンターなども）

(11) 相談について

どんなことを相談したい（話したい）か

- ・雑談を含めて自分の話を聞いてほしい、解決策がほしい、ケアラーの心のケア（父親の妄想、幻視、独語、てんかん、呂律が回らないなどの症状に医者の治療と投薬で対応、このような父親に対して施設入所など、どんなことができるのか）
- ・支援や情報を知らないし調べられなかったので、具体的な助言

## (12) あったらよいと感じる支援

「あったらよいと感じる支援」について、以下の4つに分類される。

### ア 普及・啓発と情報提供

- ・精神疾患は見えなくて分かりにくいので悩みやすい。情報が大切、知ることによって安心につながる
- ・法律的なサポート
- ・学校で福祉制度について学べたらよかった。福祉の知識
- ・ヤングケアラーについて知る機会
- ・情報（進学に関することや経済的な支援につながるなど）
- ・相談窓口やサービスなどを市・県の広報やSNSなどを使い不特定多数の人にプッシュ型で周知

### イ 相談支援体制とこころのケア

- ・悩みを抱えている子が気持ちを吐き出せる場所。誰でも相談室など行きやすい場所。ただ聞いてほしいこともある
- ・メールによる相談対応
- ・イライラした直後に話を聞いてもらえるとよい
- ・話を聞いてくれる大人がいたらよかった
- ・親に相談するようなことを相談できる人
- ・ケアラーのケア
- ・ケア自体の解消ではなく、いかに負担感なく安心して頑張れるか、という視点。楽しみを持てるようなもの、ケアの活力につながることやもの
- ・子どもの声を代弁する「子どもアドボカシー」導入を推進し、寄り添ってほしい

### ウ 現実的・経済的な支援

- ・特に精神疾患を患う家族のケアラー支援では、アウトリーチ型支援を拡充し、訪問診療体制の充実をお願いしたい。本人を病院に行かせることが困難でも、病院の側から出向いてくれることで治療につなげられる
- ・経済的な支援（ニーズに合わせた具体的に必要なこと、もの）
- ・現実的な解決策
- ・給食（弁当格差がなくなる）

### エ 権利の保障

- ・「家族を家族でケアしない権利」、「家族にケアされずともケアを受ける権利」を保障してもらいたい
- ・法律的なサポート（精神疾患によるトラブルに応じる）

## (13) 支援を利用したきっかけ（つながったきっかけ）

- ・祖母が認知症になり介護サービスを利用したことで、母の疾患に気づいてもらい支援につながった
- ・心配した近所の方が母を病院に連れていってくれて、精神疾患が判明した
- ・自分でネット検索し、支援団体へつながった
- ・きょうだいが役所に相談に行き、サービスの利用につながった
- ・はっきり覚えていない

#### (14) 利用した支援内容

- ・訪問看護
- ・ショートステイ
- ・訪問介護
- ・計画相談支援
- ・居宅介護支援

#### (15) 他の人にしてもらって嬉しかったこと

- ・訪問看護、ショートステイ
- ・母に対して優しくしてくれたこと。母が喜んでいたので、その姿もうれしかった
- ・(当時) 母からの言葉が嬉しかった。経済的に厳しい中、自分のためにお金を出してくれたこと (現在) 今思えば、お金を貸してくれた親族にも感謝の気持ちがある
- ・仕事をしていると電話相談は難しく、メールは便利だった
- ・中3の担任は3者懇談に母が来られないので、副担任と3者懇談にしてくれた
- ・学校の先生が進路を一緒に考えてくれたこと

#### (16) 支援を受けた後の変化について

- ・自分は人を信用できなかったが、NPOの職員の母に対する対応をみて反省する部分もあったし気づかされたことが多くあった。
- ・いやで仕方なかった。それまで自分たちが行っていたことは聞かずに、突然来て服薬管理などを指示されて、これ以上やることを増やすのかと思った。

#### (17) 支援をする人たちに知っておいてほしいこと

「支援をする人たちに知っておいてほしいこと」について、以下の4つに分類される。

##### ア 「一人の子ども・若者個人」への視点

- ・専門家は家族ケアの視点が強い。勝手に組み込んでキーパーソンにすることをやめてほしい
- ・今振り返れば、しんどかったのかもしれない。母のことばかり言うてくる人が嫌だったのも、自分のこと、きょうだいでがんばっていることについて分かってほしかったのかもしれない
- ・祖母の支援者は祖母しか見ないので、他の家族についても気にかけてほしい
- ・理解がなければ病気の人を「怖い人」と思われたり、実際言われたりしたこともあるが、そういった人を一生懸命フォローしている子どもたちがいること
- ・ヤングケアラーだから皆が同じではない

##### イ コミュニケーション力と信頼関係の構築

- ・話を聞いてほしい
- ・子どものその時の希望を聞いてくれる人がいるとよい
- ・子どもの話、状況をきちんと聞いてほしい

- ・相談しても誰がどんな対応をしてくれるのか分からないのに、家庭内のことを話すことができるかと思う。親に話がいくかもしれないから
- ・雑談などが大切。支援者が自分のことを開示して関係をつくることが大切

#### ウ 情報提供・周知の方法

- ・学校が情報源になる。子どもは行政のHPは見ない
- ・仕事をしていると電話相談は難しい。メールが使えると便利
- ・学校で福祉制度について学べたら、保健室にパンフレットがあればよかったと思う

#### エ 支援体制と危機管理

- ・子どもの居場所のボランティアでは、きょうだいの世話をしているヤングケアラーを見つけても時間、予算、スキルに限界がある。予算をつけてもらえば、もっとしてあげられることもあると思う
- ・ケアをしている人の方が、ケアを受けている人よりもしんどくて、つぶれてしまう可能性があること
- ・信頼できる人に巡り合えること。本当にしんどい時、一人ではないと思える環境や支援者があることが大切

## 2 当事者ヒアリング調査結果のまとめ・考察

### (1) ヒアリング対象者の年代・ケア対象者

ヒアリング対象者は20～50代の7名。主に母親、父親、祖母（精神疾患・がん・認知症など）、幼いきょうだいのケアを経験していた。

### (2) ケアの内容

家事全般、通院・服薬管理、精神疾患への対応（感情ケア・見守り）、自傷行為への対応、きょうだいの育児、家計補助、行政手続きなど多岐にわたることがわかった。

### (3) ケアすることに対する思い

ケアをすることに対する思いについては、「当時としては当たり前のことであった」という意見や、「不安だった」「母の病気や家のことをどうにかしたいと思っていた」「ケア対象者の存在を隠していたかった」などの意見が聞かれた。

家族としてケアすること自体は普通であり特別に苦でなかった、という思いもある一方で、周囲の理解のなさや支援が届かないことで、不安や負担を感じ抱え込む場合もあることがわかり、不安や負担を感じた時に相談ができる支援体制の整備が求められる。

### (4) 体調面の影響

体調面の影響については、自覚していることについては、「なかった」という意見もあったが、「睡眠障害」「ストレス」「精神的不安」「将来への不安」などが継続的に存在したことがわかった。

### (5) 生活面の影響

生活面の影響については、学業・進路選択・就職・人間関係に影響があったという意見があった。経済的困窮や体験格差も大きく、「家では休まらない」「見守り対応が必要なため、外出の時間が制限される」「家族で旅行に出かけることはなかった」「世話のために実家に戻った」「経済的な課題」「虐待」「体験格差があった」「不安が消えない」などの意見が聞かれた。

### (6) 悩みや困りごと

悩みや困りごとについては、「精神疾患への理解不足」「相談相手の不在」「進路や生活の不安」「身元保証人の問題」「対人関係の不安」などの意見が聞かれた。ここでも経済的な悩みが多く聞かれたことと、就職や結婚などの転機において、家族以外の頼れる相談先が身近にないということが課題であり、社会生活を送る上での相談事など、日常的に相談ができる人、場所、方法が必要であることがわかる。

### (7) ヤングケアラーだと気付いたきっかけ

自分がヤングケアラーだと気付いたきっかけについては、高校生以降、講演や社会人経験を通じて気づくことがあるが、「はっきりとは分からない」「該当しないと思っていた」などの意見も多く、当時は自覚がなかったという意見が多く聞かれた。

精神疾患や家庭内の課題は外から見えずらく、当事者は困りごとや不安を感じながらも、当たり前のことであると思いがちであり、周囲もヤングケアラーであることに気付きにくく、支援につながりにくいことが考えられる。ヤングケアラー支援に関して、子ども若者への周知・啓発とともに、社会全体の理解の促進に向けた一層の取組が必要である。

(8) 相談（ケアしていた当時、誰かに相談した経験）

相談経験については少なく、「当たり前だった」「誰に話せばいいか分からなかった」との意見が聞かれた。当時、家族内で話し合うことができたため他者に相談する必要を感じなかったという意見もあったが、「誰にも相談できなかった」「トラブル時にどこに相談したらよいか分からなかった」という意見もあり、相談窓口がわかりやすく周知される必要がある。

(9) 相談（ケアしていた当時、誰かに相談した経験がある場合はその相手）

相談相手については、「学校の先生」「市役所」「地域包括支援センター」「友人」などの意見が聞かれた。実際に他者に相談や話をした場合、いずれも話せたことで支援や安心につながったという意見が聞かれた。

(10) 相談（どういう人・方法（場所）が相談しやすいと思うか）

相談のしやすさについては、相談相手は「子どもを一人の人として見てくれる人」「訪問看護師」「家庭の事情を理解してくれる訪問支援者」などであり、方法としては「SNS やメールなど匿名性のある手段」などの意見が聞かれた。

(11) 相談（どんなことを相談したいか）

相談内容については、「話を聞いてほしい」「ケアラーの心のケア」「解決策がほしい」「具体的な助言」などの意見が聞かれた。精神的な負担軽減だけでなく、実際に課題解決につながるような具体的な助言も求められていることがわかる。相談内容に応じて課題を整理し、具体的な支援につながるような相談支援体制が必要とされている。

(12) あったらよいと感じる支援

「子どもの話や意見に寄り添うこと」「情報や知識を得る機会があること」「話ができる場所があること」「楽しみや安心感が得られるような支援」「アウトリーチ型支援」などの意見が聞かれた。個々のニーズや当事者の生活、気持ちに合わせた具体的な支援が求められている。

(13) 他の人にしてもらって嬉しかったこと

他の人にしてもらって嬉しかったことについては、「支援者の関わり」「学校の先生の配慮」「親族の援助」などの意見が聞かれた。具体的な支援サービス以外に、連絡方法の工夫や、学校の先生や関係機関の職員の関わりなどが重要であることがわかる。

(14) 支援する人たちに知っておいてほしいこと

支援者に知っておいてほしいことについては、「ケアする子どもの話や状況を聞くことの大切さ」「連絡手段の工夫が必要なこと」「情報の届きにくさ」「支援者との信頼関係の重要性について」などの意見などが聞かれた。

## 資料1

## WEB 調査項目・設問

## &lt;調査項目&gt;

項目	内容	設問数
1 基本属性	年齢、職種等	2問
2 家族の世話について	世話をしている家族の有無、世話の対象・内容 世話を一緒にしている（していた）人・時間	6問
3 悩みや困りごと、必要としている支援	現在抱えている（以前抱えていた）悩みや問題 相談の有無 相談しなかった（できなかった）理由 周囲に助けてほしいことや必要としている支援	4問
4 相談先	知っている、利用したことがある相談機関・窓口 相談しやすい条件	2問
5 ヤングケアラーについて	認知度、啓発活動について ヤングケアラーに必要な支援	3問

※1 全17問

2 世話をしている家族がいない人は8問

<調査設問>

1 基本属性

・三重県内在住 ・高校生世代（15歳）～30歳未満

Q1. あなたの年齢を教えてください。（数字を入力）

（ ）歳 → 30歳以上は終了

<input type="checkbox"/>	① 15歳以上18歳まで（高校生世代）
<input type="checkbox"/>	② 19歳以上22歳まで（大学生世代）
<input type="checkbox"/>	③ 23歳以上29歳まで（社会人世代）

※②について、現在18歳で令和8年4月1日までに19歳になる方を含む。

③について、現在22歳で令和8年4月1日までに23歳になる方を含む。

Q2. あなたの現在の職種等について教えてください。（どれかひとつを選択）

- |   |
|---|
| 1. 中学生 → 終了                                   |
| 2. 高校生  |
| 3. 学生（大学・短大・専門学校などを含む）                        |
| 4. 正社員（常時雇用されている一般従業者）                        |
| 5. 臨時雇用・パート・アルバイト                             |
| 6. 派遣社員                                       |
| 7. 契約社員                                       |
| 8. 会社経営者・役員                                   |
| 9. 自営業者・自由業者（フリーランス）・家族従業者（農家や商店などで家業を手伝っている） |
| 10. 無職  |
| 11. その他（具体的に記入してください）※自由記述欄設置                 |

ヤングケアラーについて、下記の定義や状態像を踏まえて、設問にお答えください。子ども・若者育成支援推進法では、ヤングケアラーを「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っている子ども・若者」として、国・地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象としています。例えば、イラストにあるような本来大人が担うと想定されている家事や家族の介護などの世話を日常的に行っている子ども・若者のことをいいます。



子ども家庭 HP (<https://www.cta.go.jp/policies/young-carer>) より引用

## 2 家族の世話について

Q3. 家族の中に、あなたが世話をしている人はいますか。(どれかひとつを選択)  
※自分の子どもを育てている場合は含まないでください。

1. 現在いる
2. 現在はいないが、過去にいた
3. 現在も過去もない →Q13へ

Q4～Q12までは、Q3で「1 現在いる」「2 現在はいないが、過去にいた」と答えられた方にお聞きします。世話の状況について教えてください。

※「現在はいないが、過去にいた」方は、当時世話をしていた人についてお答えください。

Q4. 世話を必要としている方はどなたですか？

※複数の方がいる場合は、あてはまるもの全てお答えください。

※自分の子どもを育てている場合は含まないでください。

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他(具体的に記入してください) ※自由記述欄設置

Q5.世話を必要としている方の状況を教えてください。

※複数の状況、複数の方がいる場合は、あてはまるもの全てお答えください。

- |                                  |              |                  |               |
|----------------------------------|--------------|------------------|---------------|
| 1. 高齢（65歳以上）                     | 2. 幼い（乳児・幼児） | 3. 要介護（介護が必要な状態） |               |
| 4. 認知症                           | 5. 身体障がい     | 6. 知的障がい         | 7. 精神疾患（疑い含む） |
| 8. 依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など。疑い含む） |              |                  |               |
| 9. 精神疾患・依存症以外の病気                 |              |                  |               |
| 10. その他（具体的に記入してください）※自由記述設置     |              |                  |               |

Q6. あなたが行っている世話の内容を教えてください。（あてはまるもの全て選択）※  
以下は世話をしている方が複数いる場合でも、それぞれの方ごとではなく一括で  
お答えください。

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）            |
| 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など        |
| 3. 身体的な介護（入浴やトイレ、食事の世話など）     |
| 4. 外出の付き添い（買い物、散歩など）          |
| 5. 通院の付き添い                    |
| 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）  |
| 7. 見守り                        |
| 8. 通訳（日本語や手話など）               |
| 9. 金銭管理                       |
| 10. 薬の管理                      |
| 11. 家計を助ける（働く）                |
| 12. その他（具体的に記入してください）※自由記述欄設置 |

Q7.世話は誰と行っていますか。（あてはまるもの全て選択）

- |                              |       |       |       |          |         |                      |
|------------------------------|-------|-------|-------|----------|---------|----------------------|
| 1. 母親                        | 2. 父親 | 3. 祖母 | 4. 祖父 | 5. きょうだい |         |                      |
| 6. 親戚の人                      |       |       |       |          | 7. 自分のみ | 8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用 |
| 9. その他（具体的に記入してください）※自由記述欄設置 |       |       |       |          |         |                      |

Q8. 平日に世話は何時間程度行っていますか。（日によって異なる場合は、この1  
か月の中で最も長かった日の時間をお答えください）（どれかひとつを選択）

- |               |               |               |          |
|---------------|---------------|---------------|----------|
| 1. 1時間未満      | 2. 1時間以上3時間未満 | 3. 3時間以上5時間未満 |          |
| 4. 5時間以上7時間未満 |               |               | 5. 7時間以上 |

### 3 あなた自身の悩みや困りごと、必要としている支援

Q9. あなたが現在抱えている悩みや問題、または以前抱えていた悩みや問題について教えてください（あてはまるもの全て選択）

1. 学校のこと（行きたくてもいけない・遅刻・早退・留年・休学）
2. 勉強時間のこと（宿題や勉強をする時間がとれない）
3. 受験勉強のこと（時間がとれない）
4. 進学のこと（進路を変更、考える時間がない、進学をあきらめる）
5. 就職・転職・就業のこと（活動時間や働ける時間、業種や職種が限られる、ケアと両立できるか不安がある）
6. 生活リズムのこと（睡眠・休息が十分とれない）
7. 自分の時間がない（友人との時間がとれない、部活動・サークル活動、習い事ができない）
8. 一人暮らし・アルバイトのこと（したくてもできない）
9. 経済的なこと
10. 家族から世話を優先するよう求められている
11. 仕事や登校中も、家族のケアが気になり勉強や仕事に集中できないこと
12. 自分が病気になった時に家族の世話に不安がある
13. その他（具体的に記入してください） ※自由記述欄設置
14. 特にない（→Q12へ）

Q10. Q9で「特にない」と回答した方以外の方にお聞きします。

あなたが悩みや問題を誰に（どこに）相談したか教えてください。（あてはまるもの全て選択）

1. 友人や知人
2. 家族
3. SNS等を通じて知り合った人や不特定多数の人
4. 学校や職場
5. 相談機関（電話・面接）
6. 相談機関（SNS）
7. その他（具体的に記入してください） ※自由記述欄設置
8. どこにも相談したことがない

Q11. Q10で、「どこにも相談したことがない」と回答した方にお聞きします。

あなたが相談しなかった、またはできなかった理由について教えてください（あてはまるもの全て選択）

1. 誰かに相談するほどの悩みではない
2. 家族以外の人に相談するような悩みではない
3. 誰に相談するのがよいか分からない
4. 相談できる人が身近にいない
5. 家族の事のため話しにくい
6. 家族のことを知られたくない
7. 家族に対して偏見を持たれたくない
8. 相談しても状況が変わると思えない
9. その他（具体的に記入してください） ※自由記述欄設置

Q12. 周囲に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまるもの全て選択)

1. 自分の今の状況について話を聞いてほしい
2. 家族の世話について相談に乗ってほしい
3. 職場での理解が得られるようにしてほしい
4. 公的な支援が受けられる相談窓口を教えてください
5. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
6. 自分が行っている世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
7. 自分が行っている世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい  
→具体的な代わってほしい世話の内容  
( )
8. 自由に使える時間がほしい
9. 進路や就職など将来の相談に乗ってほしい
10. 転職やキャリア支援など将来の相談に乗ってほしい
11. 学校の勉強や学習のサポート
12. 家庭への経済的(金銭面)な支援
13. 学費への支援・奨学金等
14. その他(具体的に記入してください) ※自由記述欄設置
15. 特にない

#### 4 相談先

Q13. あなたが知っている、または利用したことがある相談機関・窓口について教えてください。(あてはまるもの全て選択)

1. 各市町のヤングケアラー相談窓口
2. 精神保健福祉担当部局(自立支援医療など)
3. 障がい福祉担当部局(障がい福祉サービスなど)
4. 高齢・介護保険担当部局(介護保険サービスなど)
5. 福祉事務所(生活保護など)
6. 母子父子福祉センター(ひとり親支援など)
7. 生活者相談支援センター(県社協)
8. その他の公的な相談機関(具体的に記入してください) ※自由記述欄設置
9. その他の民間の相談機関(具体的に記入してください) ※自由記述欄設置
10. 知っている相談機関はない

Q14. あなたが相談機関に相談しやすいと思う条件について教えてください。  
(あてはまるもの全て選択)

1. 24時間いつでも相談できること
2. 匿名で相談できること
3. メールやチャット、SNSで相談できること
4. 周知カードやパンフレットで相談窓口を案内される
5. 土日に相談できること
6. 気持ちに寄り添ってくれること
7. 同じ境遇の人と会ったり話したりできること
8. 学校での講座・講演で相談機関を紹介
9. ヤングケアラー専用の相談窓口があること
10. 学校に相談窓口があること
11. 自治体の役所等の行政機関に相談窓口があること
12. 対面での相談が可能であること
13. 電話での相談が可能であること
14. その他(具体的に記入してください) ※自由記述欄設置

## 5 ヤングケアラーについて

Q15. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(どれかひとつを選択)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

Q16. 三重県では、ヤングケアラーへの理解を深めていただくため、様々な啓発活動を行なっています。啓発活動として効果があると思われる取り組みについて教えてください。(あてはまるもの全て選択)

1. テレビ、ラジオCM
2. 学校でのチラシ配付、ポスター掲示
3. SNSでの情報発信
4. インターネット広告
5. 県の広報誌やホームページへの掲載
6. 講演、研修会、イベント、オンラインセミナーの開催
7. フリーペーパーへの掲載
8. 子どもが集まる場所でのチラシの配付、ポスター掲示
9. 新聞広告
10. その他(具体的に記入してください) ※自由記述欄設置

Q17. ヤングケアラーに必要なと思う支援やサポート、要望などがあれば教えてください。(自由記述)

資料2

市町ヒアリング調査票<ヤングケアラーに関わる支援状況について>

【令和7年6月1日現在の状況についてお答えください】

市町名 ( ) 担当者 ( )

担当課 ( ) 電話番号 ( )

問1 ヤングケアラーと思われる子どもを把握するための、学校との連携についてお尋ねします。

(1) ヤングケアラーと思われる子どもを把握するため(1)「定期的な会議・話し合いの場を設けている」、また、(2)「アセスメントシート、名簿作成など事務上の工夫がある」などの場合、具体的にご記入ください。※(1)は、頻度や出席者について、(2)は、シート名や使用場面について教えてください。

●小学校との場合

●中学校との場合

●高校との場合

問2 18歳以上のヤングケアラーの相談窓口の主たる担当部署を教えてください。(当てはまるものをすべて選択) ※相談窓口がまだ設置できていない場合は、未定と記入してください。

問3 重層的支援体制整備事業の実施状況を教えてください。

- 1 実施している
- 2 実施を予定している (R 年 月～)
- 3 実施していない

問4 問3で1 実施している 場合、重層的支援体制整備事業の主たる担当 (課・係・担当者) 部署を教えてください。

問5 ヤングケアラーへの対応状況を教えてください。

【令和6年度～令和7年6月1日までの相談受付件数 (他機関からの相談含む)】

・18歳未満 ( ) 件

・18歳以上 ( ) 件

【令和6年度～令和7年6月1日までの個別支援件数】 (見守りを含む)

・18歳以上 ( ) 件

・18歳未満 ( ) 件

問6 ヤングケアラーの支援について取り組まれていることを教えてください。

問7 ヤングケアラーの支援について今後必要と考える支援内容を教えてください。

問8 県に期待すること、県から提供してもらいたい情報などがあれば教えてください。

問9 三重県では、ヤングケアラーの実態把握から支援につなぐことを目的とした「アセスメントシート」の作成を予定しています（主に、学校との連携時に利用を想定）。今後、アセスメントシート作成にあたり、ご意見をうかがったり、試行的な利用に関してご協力いただけるかどうか、現段階でのご意向を教えてください。

- 1 協力してもよい
- 2 どちらともいえない
- 3 協力できない

## 資料3

## 当事者ヒアリング項目

( ) さんの状況 (関係者への事前インタビューによる)	
紹介者	
年齢・性別	
ケアの対象、状況	
ケアの状況 (概要)	
家族構成	
就労・就学状況	
支援を利用したきっかけ (つながったきっかけ)	
利用した支援内容 (あれば)	
支援の利用回数 (あれば)	
( ) さんインタビュー記録概要	
ケアについて	<p>(1) 内容・時間・頻度・期間</p> <p>(2) ケアをすることに対する思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時はどのように感じていたか、考えていたか</li> <li>・ 現在はどのように感じるか、考えるか</li> </ul> <p>(3) 体調面で気になること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時は気になることがあったか</li> <li>・ 現在はどうか</li> </ul> <p>(4) 生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時を振り返って</li> <li>・ 現在はどのようなところに影響が出ていると感じるか</li> </ul>
悩みや困りごと	・ 悩みや困りごとはありましたか、その悩みの内容は

自身がYCだと気付いたきっかけ	
※相談について (話をすることについて)	<p>(1) ケアをしていた当時、誰かに相談した(ケアのことを話した)経験があるか → ある/ない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ない場合はその理由</li> <li>・ある場合はその内容、相談相手</li> </ul> <p>(2) どのような人・方法(場所)が相談しやすいと感じるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高生</li> <li>・それ以外</li> </ul> <p>(3) どのようなことを相談したい(話したい)か。 例) 気持ちを聞いてほしい、ケアの具体的な助言、進路のことなど</p>
あったらよいなと感じる支援	(今ある支援がより使いやすくなってほしい、なども含む) 例) 専用の相談窓口、同じ境遇の人と話せる場所、オンラインでのつながり、具体的なサービスなど
支援について (利用していれば)	<p>(1) 支援を利用したきっかけ(経緯)</p> <p>(2) 利用した支援内容</p> <p>(3) 支援の利用回数</p>
支援を受けた後について(利用していれば)	<p>(1) ケア(あなたが担っている役割)に関して変わったこと</p> <p>(2) 健康面・心理面・生活面・家族関係等の変化</p>
他の人にしてもらって嬉しかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当時を振り返って</li> <li>・ 現在はどうか</li> </ul>
支援をする人たちに知ってほしいこと	

この調査報告書の作成にあたっては、次の方に監修をお願いし、  
貴重なご意見をいただきました。厚く御礼申し上げます。

土田 幸子（鈴鹿医療科学大学准教授）  
（敬称略）

三重県ヤングケアラー調査報告書

発行年月 令和8年3月

発行 三重県 子ども・福祉部  
家庭福祉・施設整備課